

第11章 ひとりぐらし高齢者（単身世帯）の生活実態

本章では、ひとりぐらし高齢者（938人）の生活実態について、1 ひとりぐらし高齢者の概況、2 家族、3 健康、4 介護保険制度、5 住まい、6 コミュニケーション・社会参加、7 就業・経済、8 高齢者に対する必要な施策や支援の8つの側面から概観する。

1 ひとりぐらし高齢者の概況

(1) ひとりぐらし高齢者の推移

高齢者世帯のうち、ひとりぐらし高齢者の割合は2割

ひとりぐらし高齢者の割合は、世帯類型別にみると、21.4%となっている。（図11-1）
過去調査（昭和55年～）からの推移をみると、ひとりぐらし高齢者の割合は、調査を開始した昭和55年から一貫して増加し続けている。男女別にみると、男性は昭和60年から一貫して増加し続けている。一方、女性は平成2年に前回調査から1.4ポイント減少したものの、昭和55年から増加傾向にある。（図11-2）

図11-1 世帯類型

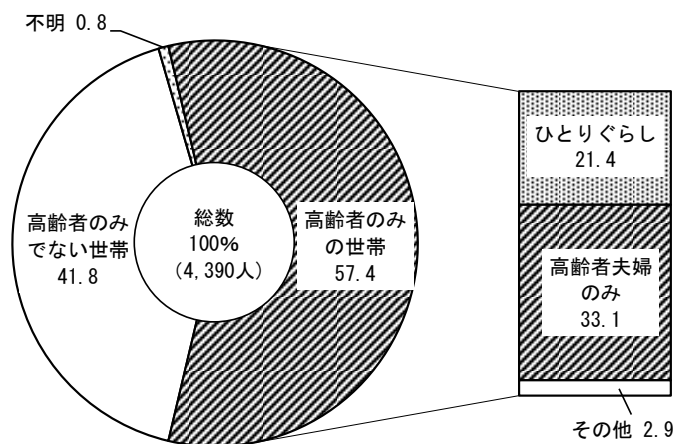
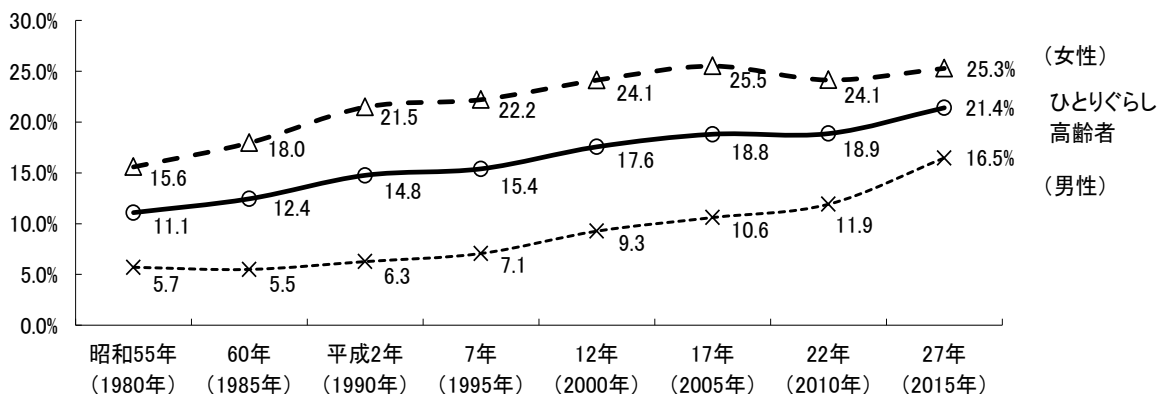


図11-2 ひとりぐらし高齢者の割合の推移



(2) 年齢階級一性別、全数との比較

女性の75歳以上の割合は、全数より高くなっている

ひとりぐらし高齢者の年齢階級は、前期高齢者(65～74歳)が48.6%、後期高齢者(75歳以上)が51.4%で、全数(前期高齢者53.7%、後期高齢者46.3%)と比較すると、後期高齢者の割合が高くなっている。特に女性の後期高齢者の割合は57.4%で、全数(49.1%)における女性の後期高齢者と比較すると、8.3ポイント高くなっている。(表11-1)

表 11-1 年齢階級一性別、全数との比較

	総 数	6 5 5 6 9 歳	7 0 5 7 4 歳	7 5 7 9 歳	8 0 5 8 4 歳	8 5 歳 以 上	7 (5 再 歳 掲 以 上)	平 均
ひとりぐらし 高齢者	100.0 (938)	25.8 22.8 48.6		21.9	17.5	12.0	51.4	75.6
男	100.0 (321)	35.2	24.9	22.4	10.0	7.5	39.9	73.5
女	100.0 (617)	20.9	21.7	21.6	21.4	14.4	57.4	76.6
全数	100.0 (4,390)	28.7 25.0 53.7		21.2	14.9	10.2	46.3	74.8
男	100.0 (1,949)	31.3	25.9	21.4	13.0	8.4	42.8	74.1
女	100.0 (2,441)	26.5	24.4	21.1	16.4	11.6	49.1	75.3

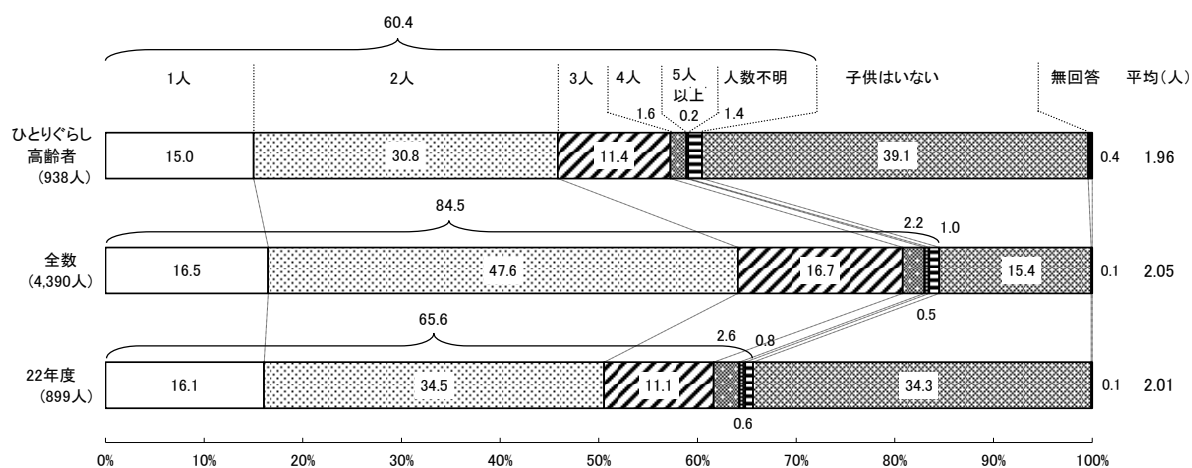
注) 全数とは、今回調査における高齢者全体(4,390人)をいう(ひとりぐらし高齢者も含む)。

(3) 子供の有無・人数－全数との比較

「子供がいる」割合は、60.4%

ひとりぐらし高齢者における子供がいる割合は60.4%で、全数(84.5%)と比較すると24.1ポイント低い。平均人数は1.96人となっている。(図11-3)

図11-3 子供の有無・人数－全数との比較



注) 統計比率を合算した比率は、実数を用いて算出しているため、各比率を単純に合算した比率とは一致しない場合がある。

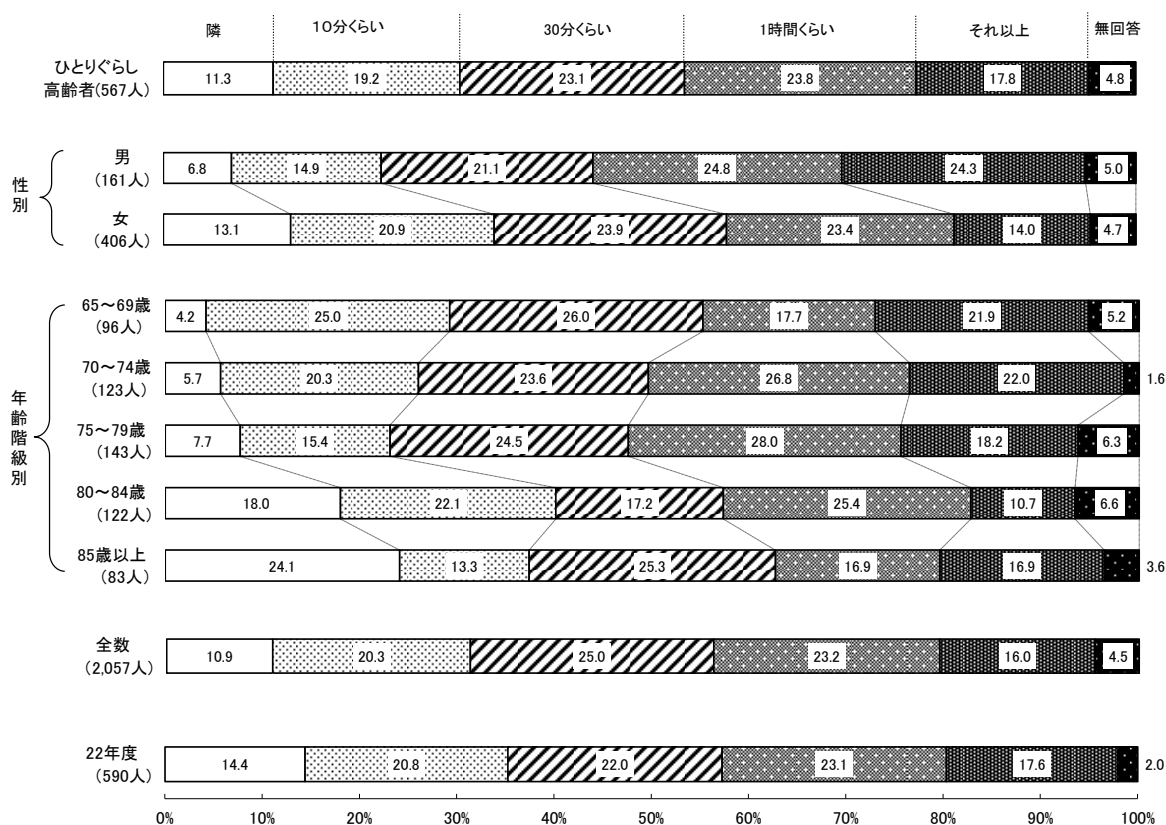
2 家族

(1) 別居している子供との距離一性・年齢階級別

子供との距離は、年齢が上がるにつれて、概ね「隣」の割合が増加

子供と別居しているひとりぐらし高齢者（567人）と、一番近くに住んでいる子供との距離をみると、70歳以上では、年齢階級が上がるにつれて、「隣」の割合が増加し、85歳以上では24.1%となっている。（図11-4）

図11-4 別居している子供との距離一性・年齢階級別



注) 全数とは、高齢者全体のうち子供と別居している高齢者2,057人。

3 健康

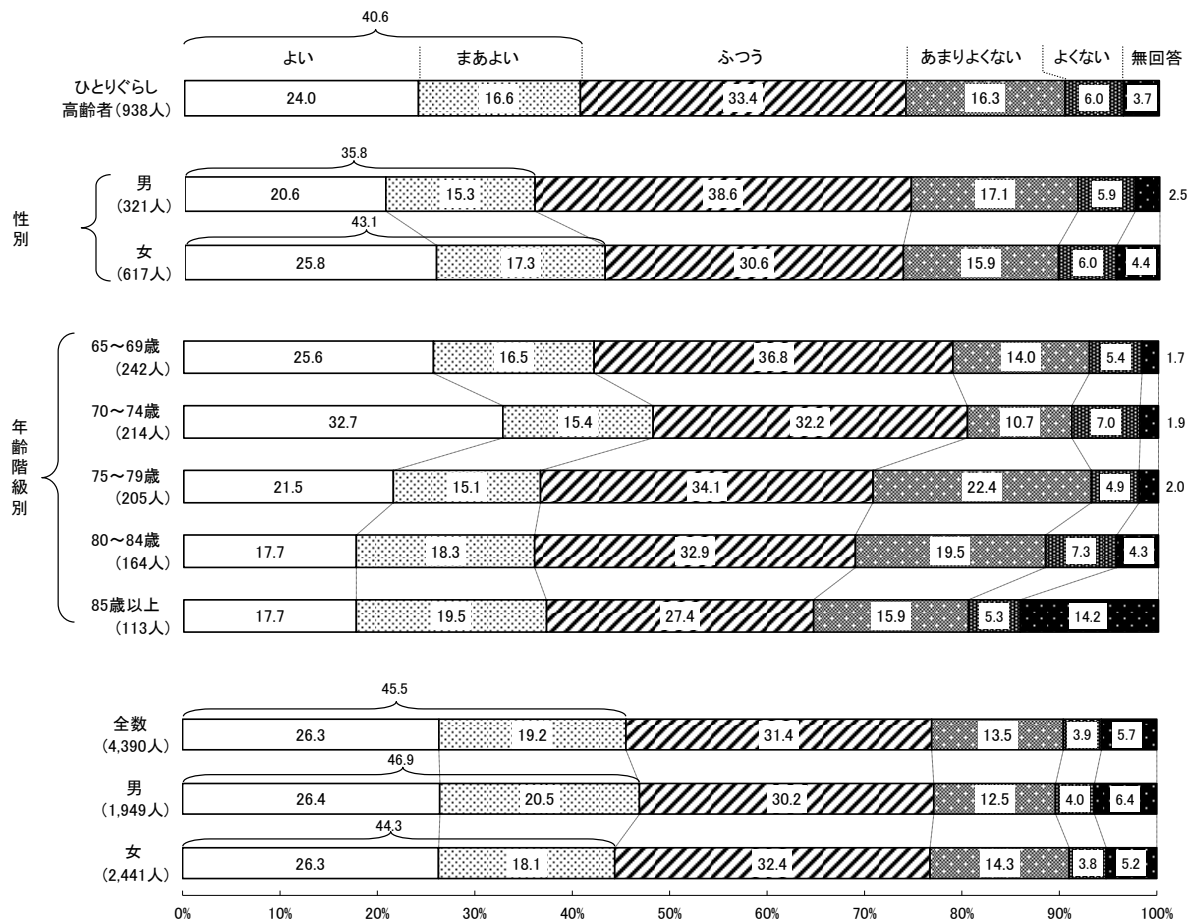
(1) 健康意識一性・年齢階級別、全数との比較

健康状態を「よい」と「まあよい」と感じている人の割合は、高齢者全体では男性より女性が低く、ひとりぐらしの人では男性よりも女性が高い

ひとりぐらし高齢者（938人）の健康状態をみると、「ふつう」が33.4%で最も高く、次いで「よい」が24.0%、「まあよい」が16.6%と続いている。また「よい」と「まあよい」を合わせた割合は、40.6%となっている。

性別でみると、「よい」と「まあよい」を合わせた割合は、高齢者全体では男性より女性が低く（男性46.9%、女性44.3%）、ひとりぐらしの人では男性よりも女性が高くなっている（男性35.8%、女性43.1%）。高齢者全体の男性とひとりぐらし高齢者の男性を比較すると、ひとりぐらし高齢者の方が11.1ポイント低くなっている。（図11-5）

図11-5 健康意識一性・年齢階級別、全数との比較



注) 統計比率を合算した比率は、実数を用いて算出しているため、各比率を単純に合算した比率とは一致しない場合がある。

(2) 日常生活動作 (ADL)

ア 日常生活動作 (ADL) (聴力、視力、意思伝達、歩行、食事、着替え、入浴、排せつ)

すべての項目において、7割以上のひとりぐらし高齢者が「日常生活に支障はない」
又は「ひとりで全部できる」と回答

日常生活動作能力 (ADL) を「聴力」「視力」「意思伝達」「歩行」「食事」「着替え」「入浴」「排せつ」の8項目の回答状況を表示したのが表 11-2 である。

表 11-2 日常生活動作 (ADL)

	A		B	
聴力 ※1	1 日常生活に支障はない	73.9(74.2)	4 日常生活に支障がある	2.2(2.3)
	2 日常生活にほとんど支障はない	13.6(13.6)		
	3 日常生活に多少支障がある	9.2(8.9)		
視力 ※2	1 日常生活に支障はない	70.9(73.0)	3 日常生活に多少支障がある	9.3(8.4)
	2 日常生活にほとんど支障はない	17.3(15.9)	4 日常生活に支障がある	1.6(1.5)
意思伝達	1 日常生活に支障はない	84.9(84.4)	3 日常生活に多少支障がある	3.1(3.6)
	2 日常生活にほとんど支障はない	10.2(9.3)	4 日常生活に支障がある	0.6(1.3)
歩行 ※3	1 ひとりで全部できる	86.2(87.6)	3 一部介助が必要	2.6(3.4)
	2 時間をかければひとりでできる	8.8(6.4)	4 全面的な介助が必要	1.4(2.0)
食事	1 ひとりで全部できる	94.0(94.8)	3 一部介助が必要	0.6(0.9)
	2 時間をかければひとりでできる	4.3(3.2)	4 全面的な介助が必要	0.4(0.6)
着替え	1 ひとりで全部できる	94.0(93.5)	3 一部介助が必要	0.7(1.9)
	2 時間をかければひとりでできる	3.5(2.7)	4 全面的な介助が必要	0.9(1.3)
入浴	1 ひとりで全部できる	90.5(91.9)	3 一部介助が必要	3.0(2.3)
	2 時間をかければひとりでできる	3.2(2.3)	4 全面的な介助が必要	2.3(2.8)
排せつ	1 ひとりで全部できる	94.3(94.3)	3 一部介助が必要	0.4(1.0)
	2 時間をかければひとりでできる	3.3(2.8)	4 全面的な介助が必要	1.0(1.3)

※1 普段、補聴器を使用している場合は、補聴器を使用した状態で回答している。

※2 普段、眼鏡を使用している場合は、眼鏡を使用した状態で回答している。

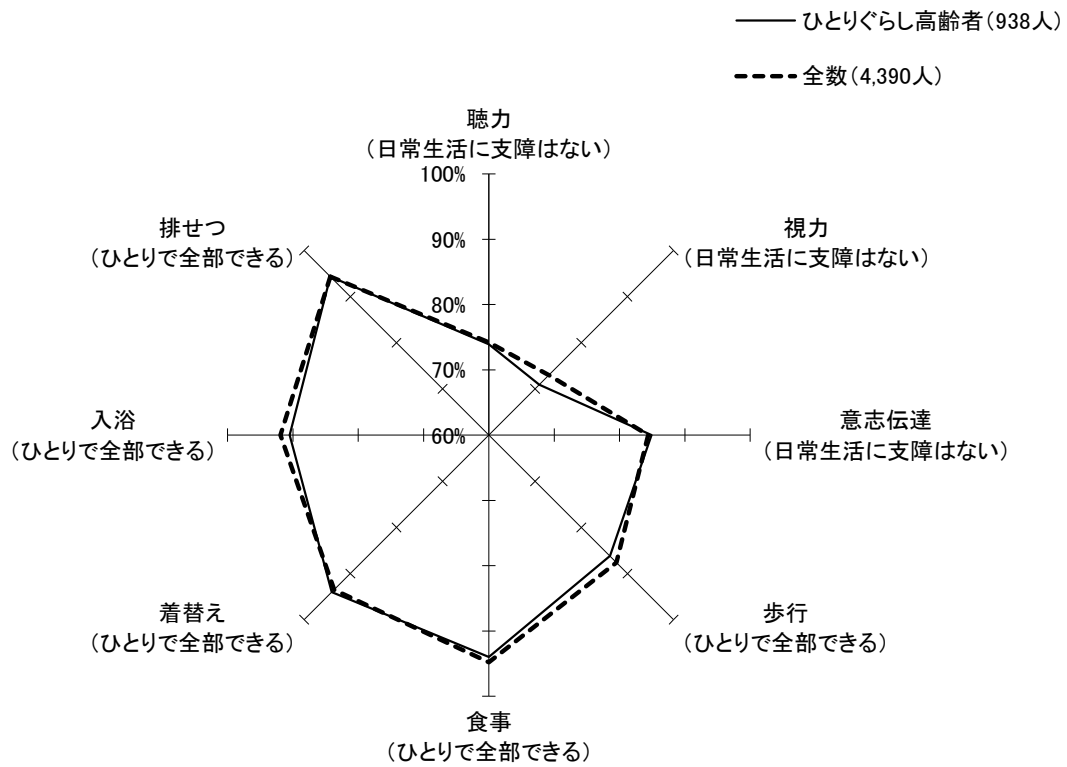
※3 普段、杖や車椅子等を使用している場合は、それらを使用した状態で回答している。

注1) ()内は全数4,390人の割合である。

2) A・B欄は「動作能力類型」(P42参照)を作成するための分類である。

下の図 11-6 は、表 11-2 の各項目で「1」と答えた、ADL に問題のない高齢者の割合を示したものである。

図 11-6 ADL に問題のない高齢者の割合－全数との比較

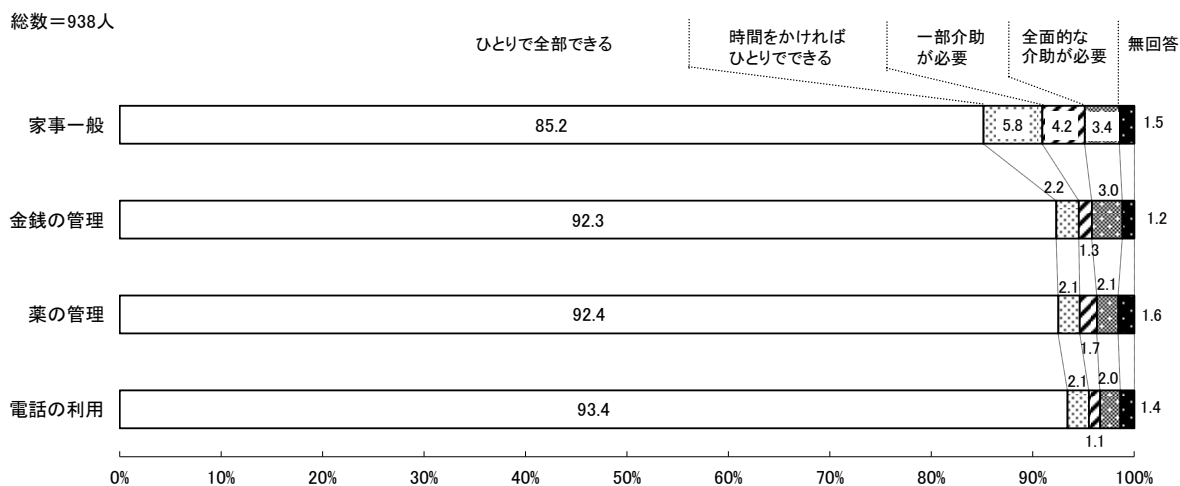


イ 日常生活動作（ADL）（家事一般、金銭の管理、薬の管理、電話の利用）

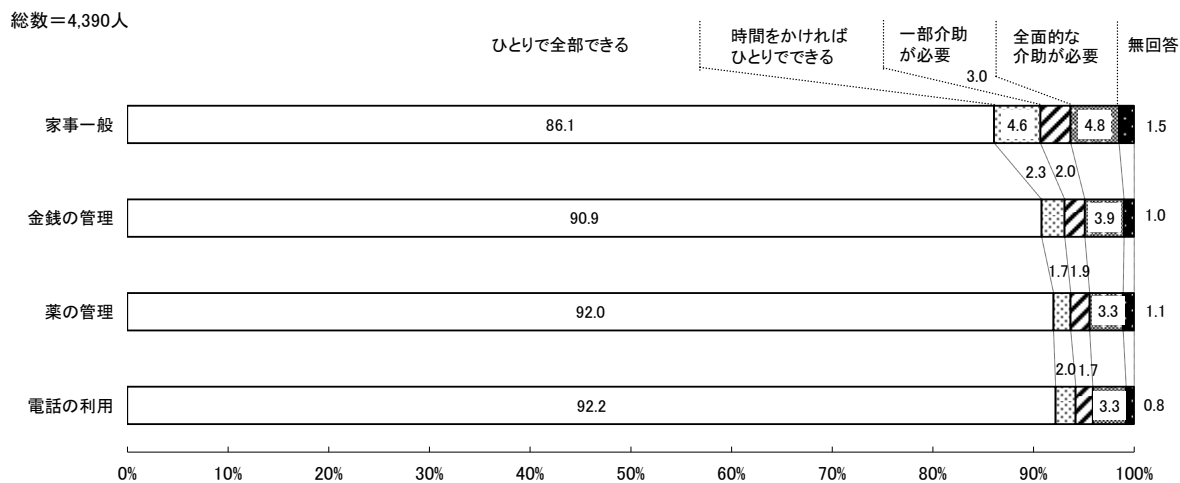
家事一般は、他の項目より「ひとりで全部できる」の割合は低い

図 11-7 日常生活動作（ADL）（家事一般、金銭の管理、薬の管理、電話の利用）

《ひとり暮らし高齢者》



《全数》



(3) 動作能力類型一性・年齢階級別

「寝たきりなどの高齢者」は、男性よりも女性の割合が高い

動作能力類型では、「障害のない高齢者」の割合が58.0%で最も高くなっている。

性別でみると、「寝たきりなどの高齢者」の割合は、男性5.3%、女性9.1%で、女性の方が高くなっている。(表11-3)

表11-3 動作能力類型一性・年齢階級別

	総数	寝たきりなどの高齢者	寝たきりに近い高齢者		高比較的重い障害のある高齢者	軽い障害のある高齢者	障害のない高齢者	無回答	
			寝たきり高齢者	者					
ひとり暮らし高齢者	100.0 (938)	7.8	1.3	6.5	9.6	22.7	<u>58.0</u>	1.9	
性・年齢階級別	男	100.0 (321)	<u>5.3</u>	-	5.3	7.8	23.4	61.7	1.9
	65～74歳	100.0 (193)	3.1	-	3.1	4.7	19.7	71.0	1.6
	75歳以上	100.0 (128)	8.6	-	8.6	12.5	28.9	47.7	2.3
	女	100.0 (617)	<u>9.1</u>	1.9	7.1	10.5	22.4	56.1	1.9
	65～74歳	100.0 (263)	4.2	0.8	3.4	6.1	14.1	72.6	3.0
	75歳以上	100.0 (354)	12.7	2.8	9.9	13.8	28.5	43.8	1.1
全数	100.0 (4,390)	8.2	2.6	5.6	8.1	20.7	60.7	2.3	

注) 動作能力類型は、42頁を参照。

(4) 食事の状況－全数との比較

普段の食事の用意は、「自分が調理」の割合が最も高く、7割超

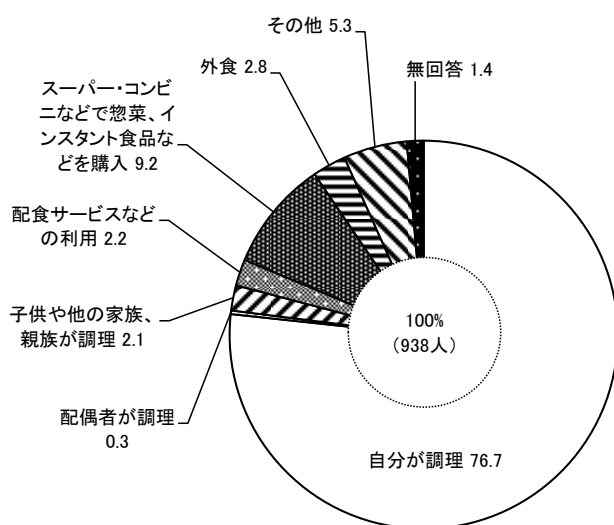
ひとりぐらし高齢者（938人）の普段の食事の状況をみると、食事の用意は「自分が調理」の割合が最も高く76.7%、次いで「スーパー・コンビニなどで惣菜、インスタント食品などを購入」が9.2%となっている。

全数（55.1%）と比較すると、「自分が調理」の割合は21.6ポイント高くなっている。

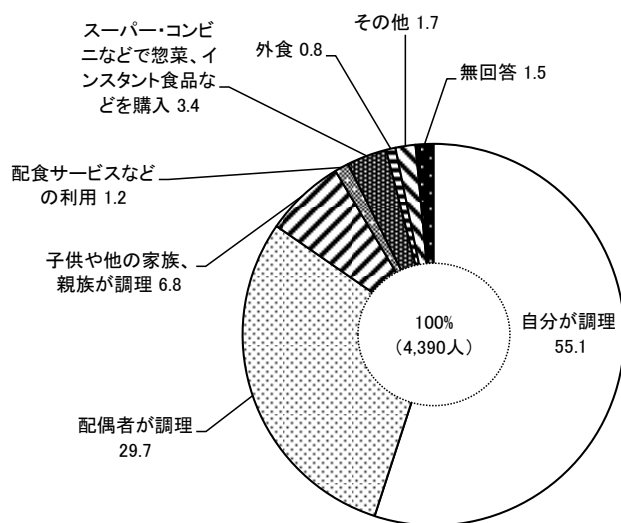
（図 11-8）

図 11-8 食事の状況

《ひとりぐらし高齢者》



《全数》



4 介護保険制度

(1) 要介護認定（要支援認定を含む。）申請の有無

－全数、高齢者夫婦のみの世帯との比較

「認定を受けている」人の割合は17.0%で、全数（12.5%）と比較して高い

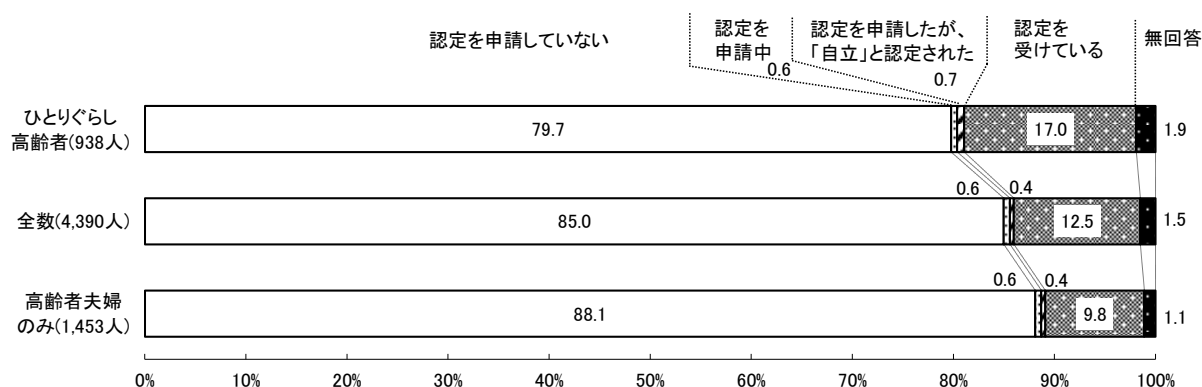
ひとりぐらし高齢者(938人)における介護保険制度の要介護認定(要支援認定を含む。)申請の有無をみると、「認定を受けている」人の割合は17.0%、「認定を申請していない」人の割合は79.7%となっている。

全数(12.5%)と比較すると、「認定を受けている」割合は4.5ポイント高くなっている。また、高齢者夫婦のみの世帯(9.8%)と比較すると、7.2ポイント高くなっている。

(図11-9)

図11-9 要介護認定（要支援認定を含む。）申請の有無

－全数、高齢者夫婦のみの世帯との比較



(2) 要支援・要介護度一性・年齢階級、動作能力類型別

「要支援1」の割合が最も高く、26.4%

ひとりぐらし高齢者で要介護認定（要支援認定を含む。）を受けている人（159人）の要支援・要介護度をみると、「要支援1」の割合が最も高く26.4%、次いで「要介護1」が22.0%、「要介護2」が20.1%となっている。（表11-4）

表11-4 要支援・要介護度一性・年齢階級、動作能力類型別

		総数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	無回答
ひとりぐらし高齢者		100.0 (159)	26.4	18.9	22.0	20.1	4.4	5.0	-	3.1
性別	男	100.0 (34)	17.6	23.5	23.5	26.5	5.9	-	-	2.9
	女	100.0 (125)	28.8	17.6	21.6	18.4	4.0	6.4	-	3.2
年齢階級別	65～74歳	100.0 (38)	18.4	18.4	18.4	26.3	2.6	5.3	-	10.5
	75歳以上	100.0 (121)	28.9	19.0	23.1	18.2	5.0	5.0	-	0.8
動作能力類型別	寝たきりなど的高齢者	100.0 (63)	7.9	11.1	20.6	36.5	11.1	11.1	-	1.6
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (29)	24.1	31.0	34.5	10.3	-	-	-	-
	軽い障害のある高齢者	100.0 (37)	43.2	16.2	24.3	13.5	-	-	-	2.7
	障害のない高齢者	100.0 (28)	46.4	25.0	10.7	3.6	-	3.6	-	10.7
全数		100.0 (547)	24.3	16.6	17.7	18.1	11.0	6.6	2.9	2.7
高齢者夫婦のみ		100.0 (143)	28.7	13.3	15.4	20.3	9.8	7.0	2.1	3.5

(3) 介護の状況（ひとりぐらし高齢者が介護を受けている状況）

ア 介護をしている人〔複数回答〕－性別、全数との比較

「ホームヘルパーなどの介護職員」が介護をしている割合が最も高く、8割

ひとりぐらし高齢者で要介護認定（要支援認定を含む。）を受けている人のうち、介護を受けている人（100人）を誰が介護しているかについてみると、「ホームヘルパーなどの介護職員」の割合が最も高く80.0%、次いで「子供」26.0%となっている。

全数と比較すると、「ホームヘルパーなどの介護職員」の割合は45.1ポイント高く、「子供」の割合は21.8ポイント低くなっている。（表11-5）

表11-5 介護をしている人〔複数回答〕－性別、全数との比較

		総数	配偶者	子供	子供の配偶者	孫またはその配偶者	兄弟姉妹	1～5以外の親族	介護職員 ホームヘルパーなどの	訪問看護師	近所の人	その他
ひとりぐらし高齢者		100.0 (100)	2.0	<u>26.0</u>	8.0	-	5.0	5.0	<u>80.0</u>	11.0	2.0	4.0
性別	男	100.0 (22)	9.1	13.6	9.1	-	4.5	9.1	68.2	4.5	9.1	-
	女	100.0 (78)	-	29.5	7.7	-	5.1	3.8	83.3	12.8	-	5.1
全数		100.0 (427)	38.2	<u>47.8</u>	15.0	4.2	3.3	2.8	<u>34.9</u>	8.2	0.7	1.6

イ 介護をしている人のうち、最も介護している時間が長い人—性別、全数との比較

最も長い時間、介護をしている人は「ホームヘルパーなどの介護職員」の割合が高く、7割

ひとりぐらし高齢者で要介護認定（要支援認定を含む。）を受けている人のうち、介護を受けている人（100人）を誰が最も長い時間介護しているかについてみると、「ホームヘルパーなどの介護職員」の割合が最も高く73.0%、次いで「子供」（15.0%）となっている。

全数と比較すると、「ホームヘルパーなどの介護職員」の割合は47.7ポイント高く、「子供」の割合は13.1ポイント低くなっている。（表11-6）

表11-6 介護をしている人のうち、最も介護している時間が長い人—性別、全数との比較

		総数	配偶者	子供	子供の配偶者	孫またはその配偶者	兄弟姉妹	155以外の親族	ホームヘルパーなどの介護職員	訪問看護師	近所の人	その他	無回答
ひとりぐらし高齢者		100.0 (100)	2.0	<u>15.0</u>	-	-	2.0	3.0	<u>73.0</u>	-	1.0	4.0	-
性別	男	100.0 (22)	9.1	9.1	-	-	4.5	9.1	63.6	-	4.5	-	-
	女	100.0 (78)	-	16.7	-	-	1.3	1.3	75.6	-	-	5.1	-
全数		100.0 (427)	34.0	<u>28.1</u>	7.3	-	1.6	1.2	<u>25.3</u>	0.2	0.2	1.6	0.5

5 住まい

(1) 住宅の種類一性・年齢階級別、全数との比較

「持家」の割合は、54.8%

ひとりぐらし高齢者（938人）が現在住んでいる住宅の種類を大別すると、「持家」が54.8%、「借家・賃貸住宅など」が43.4%となっている。種類別にみると、「持家（一戸建て）」の割合が最も高く36.6%、次いで「民間賃貸住宅」が28.1%、「持家（分譲マンションなど）」が18.2%となっている。

「持家（一戸建て）」の割合は、全数（60.1%）と比較すると23.5ポイント低く、「民間賃貸住宅」の割合は、全数（12.8%）と比較すると15.3ポイント高くなっている。

性・年齢階級別にみると、「持家」の割合は、女性の後期高齢者（75歳以上）が最も高く65.5%、「民間賃貸住宅」の割合は、男性の前期高齢者（65～74歳）が最も高く48.7%となっている。（表11-7）

表11-7 住宅の種類一性・年齢階級別、全数との比較

	総数	持家			借家・賃貸住宅など	民間賃貸住宅	都・区・市・町村の公営賃貸住宅	都市再生機構（旧公団）・公社などの賃貸住宅	借家（一戸建て）	高齢者向け住宅など	その他	無回答		
		持家（一戸建て）	持家（分譲マンションなど）											
ひとりぐらし高齢者	100.0 (938)	<u>54.8</u>	<u>36.6</u>	<u>18.2</u>	<u>43.4</u>	<u>28.1</u>	8.7	2.8	1.0	2.8	1.2	0.6		
性・年齢階級別	男	100.0 (321)	43.0	31.5	11.5	53.9	42.4	6.5	2.8	0.6	1.6	1.6	1.6	
		65～74歳	100.0 (193)	37.3	21.8	15.5	58.5	<u>48.7</u>	4.1	4.1	1.0	0.5	1.6	2.6
	75歳以上	100.0 (128)	51.6	46.1	5.5	46.9	32.8	10.2	0.8	-	3.1	1.6	-	
	女	100.0 (617)	60.9	39.2	21.7	37.9	20.7	9.9	2.8	1.1	3.4	1.0	0.2	
		65～74歳	100.0 (263)	54.8	33.5	21.3	43.3	26.2	11.4	2.3	1.5	1.9	1.5	0.4
		75歳以上	100.0 (354)	<u>65.5</u>	43.5	22.0	33.9	16.7	8.8	3.1	0.8	4.5	0.6	-
全数	100.0 (4,390)	76.4	<u>60.1</u>	16.3	22.6	<u>12.8</u>	5.6	2.4	1.1	0.7	0.6	0.4		
22年度	100.0 (899)	57.3	36.0	21.2	42.2	19.0	9.5	9.7	1.9	2.1	0.6	0.2		

注）統計比率を合算した比率は、実数を用いて算出しているため、各比率を単純に合算した比率とは一致しない場合がある。

(2) 希望する高齢期の住まい（介護が必要にならないうち）

一性・年齢階級、住宅の種類別、全数との比較

「現在の住宅に住み続けたい」の割合は 60.8%、「高齢者向け住宅（サービス付き高齢者向け住宅など）に入居したい」は 11.5%

介護保険制度の要介護認定を申請していないひとりぐらし高齢者の人（748人）が、介護が必要にならないうちに希望する高齢期の住まいについて、全数（72.0%）と比較すると、「現在の住宅に住み続けたい」の割合は 60.8%で、全数の方が 11.2 ポイント高くなっている。

一方、「高齢者向け住宅（サービス付き高齢者向け住宅）に入居したい」の割合は 11.5%で、全数（6.7%）と比較すると、ひとりぐらし高齢者の方が 4.8 ポイント高くなっている。（表 11-8）

表 11-8 希望する高齢期の住まい（介護が必要にならないうち）

一性・年齢階級、住宅の種類別、全数との比較

	総数	現在の住宅に住み続けたい	子供や親族の家またはその近くの一般の住宅に移りたい	有料老人ホームに入居したい	高齢者向け住宅（サービス付き高齢者向け住宅など）に入居したい	上記2～4（注1）以外の一般の住宅に移りたい（注1）	その他	わからない	無回答
ひとりぐらし高齢者	100.0 (748)	60.8	2.4	2.5	11.5	3.6	1.7	13.4	4.0
性別	男 (274)	52.9	2.2	2.9	11.7	4.4	1.8	20.8	3.3
	女 (474)	65.4	2.5	2.3	11.4	3.2	1.7	9.1	4.4
年齢階級別	65～69歳 (218)	49.5	3.2	2.8	14.7	7.8	3.2	15.6	3.2
	70～74歳 (188)	60.1	3.7	1.1	12.2	4.3	1.1	13.8	3.7
	75～79歳 (176)	65.3	0.6	2.8	13.6	1.1	1.1	13.6	1.7
	80～84歳 (110)	71.8	1.8	5.5	6.4	-	1.8	7.3	5.5
	85歳以上 (56)	71.4	1.8	-	-	-	-	14.3	12.5
住宅の種類別	持家（一戸建て） (269)	78.4	0.7	2.6	4.8	1.5	-	7.1	4.8
	持家（分譲マンションなど） (145)	71.0	1.4	4.1	9.0	3.4	1.4	5.5	4.1
	民間賃貸住宅 (220)	31.4	5.9	2.3	22.3	6.4	4.1	24.5	3.2
	都・区市町村の公営賃貸住宅 (70)	68.6	1.4	1.4	7.1	2.9	2.9	12.9	2.9
	都市再生機構（旧公団）・ 公社などの賃貸住宅 (20)	65.0	-	-	10.0	5.0	-	20.0	-
全数	100.0 (3,731)	72.0	2.2	2.2	6.7	2.3	1.3	8.8	4.4
性別	男 (1,711)	69.5	2.2	2.6	6.0	2.8	0.9	10.5	5.6
	女 (2,020)	74.2	2.3	1.9	7.3	1.9	1.5	7.4	3.5

注 1) 上記 2～4 とは、「子供や親族の家またはその近くの一般の住宅に移りたい」、「有料老人ホームに入居したい」、「高齢者向け住宅（サービス付き高齢者向け住宅など）に入居したい」を指す。

2) 住宅の種類別のうち、「借家（一戸建て）」、「高齢者向け住宅など」、「その他」については、母集団が 7 人、6 人、7 人のため省略した。

(3) 希望する高齢期の住まい（介護が必要になったとき）

一性・年齢階級、住宅の種類別、全数との比較

「現在の住宅に住み続けたい」の割合は 38.2%、「介護保険で入所できる施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい」は 17.3%

ひとりぐらし高齢者（938人）が、介護が必要になったときに希望する高齢期の住まい（現在介護を受けている人は、今後の希望を回答）について、全数（49.5%）と比較すると、「現在の住宅に住み続けたい」の割合は 38.2%で、全数の方が 11.3ポイント高くなっている。

一方、「介護保険で入所できる施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい」の割合は 17.3%で、全数（13.1%）と比較すると、ひとりぐらし高齢者の方が 4.2ポイント高くなっている。（表 11-9）

表 11-9 希望する高齢期の住まい（介護が必要になったとき）

一性・年齢階級、住宅の種類別、全数との比較

	総数	現在の住宅に住み続けたい	子供や親族の家またはその近くの一般の住宅に移りたい	有料老人ホームに入居したい	高齢者向け住宅（サービス付き高齢者向け住宅など）に入居したい	介護保険で入所できる施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい	上記2～5（注1）以外の一般の住宅に移りたい（自然環境のよいところなど）	その他	わからない	無回答
ひとりぐらし高齢者	100.0 (938)	38.2	3.7	6.1	11.4	17.3	1.4	1.7	15.1	5.1
性別										
男	100.0 (321)	31.5	3.1	6.9	12.1	18.1	1.9	1.9	21.5	3.1
女	100.0 (617)	41.7	4.1	5.7	11.0	16.9	1.1	1.6	11.8	6.2
年齢階級別										
65～69歳	100.0 (242)	26.0	4.1	4.5	17.8	19.4	2.9	2.1	19.0	4.1
70～74歳	100.0 (214)	34.1	4.7	4.7	12.6	17.8	1.4	1.9	18.7	4.2
75～79歳	100.0 (205)	38.5	3.4	6.3	11.2	21.5	0.5	1.0	15.1	2.4
80～84歳	100.0 (164)	50.0	3.7	10.4	6.7	12.2	1.2	1.8	9.8	4.3
85歳以上	100.0 (113)	54.0	1.8	5.3	2.7	11.5	-	1.8	8.0	15.0
住宅の種類別										
持家（一戸建て）	100.0 (343)	51.6	1.7	9.3	7.0	12.8	0.3	1.2	11.1	5.0
持家（分譲マンションなど）	100.0 (171)	38.6	3.5	8.2	14.6	14.6	1.8	0.6	11.7	6.4
民間賃貸住宅	100.0 (264)	17.4	7.2	2.7	16.3	23.1	2.7	1.9	24.6	4.2
都・区市町村の公営賃貸住宅	100.0 (82)	48.8	2.4	2.4	4.9	25.6	1.2	3.7	7.3	3.7
都市再生機構（旧公団）・公社などの賃貸住宅	100.0 (26)	19.2	-	7.7	23.1	23.1	-	7.7	19.2	-
高齢者向け住宅など	100.0 (26)	73.1	-	-	-	-	-	3.8	7.7	15.4
その他	100.0 (11)	27.3	-	-	18.2	18.2	-	-	27.3	9.1
全数	100.0 (4,390)	49.5	2.3	6.1	8.3	13.1	1.0	1.0	11.3	7.3
性別										
男	100.0 (1,949)	49.9	2.1	6.2	7.5	11.8	1.1	0.9	12.7	7.8
女	100.0 (2,441)	49.2	2.5	6.1	8.9	14.1	1.0	1.1	10.2	6.8

注 1) 上記 2～5 とは、「子供や親族の家またはその近くの一般の住宅に移りたい」、「有料老人ホームに入居したい」、「高齢者向け住宅（サービス付き高齢者向け住宅など）に入居したい」、「介護保険で入所できる施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい」を指す。

2) 住宅の種類別のうち、「借家（一戸建て）」については、母集団が 9 人のため省略した。

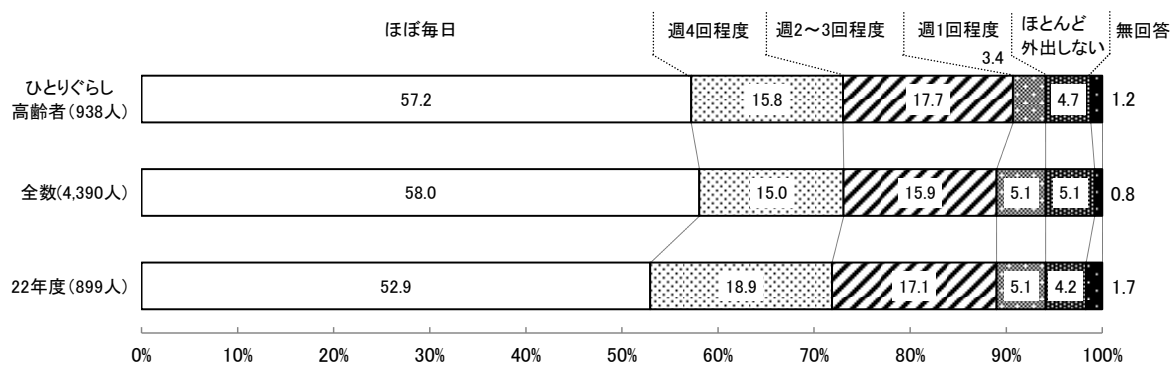
6 コミュニケーション・社会参加

(1) 外出の頻度

「ほぼ毎日」外出する割合が最も高く、5割超

ひとりぐらし高齢者(938人)の外出頻度(1日に2回以上外出する場合は1回とする)をみると、「ほぼ毎日」の割合が57.2%と最も高く、次いで「週2~3回程度」が17.7%となっている。(図11-10)

図11-10 外出の頻度



(2) 近所付き合いの程度－性・年齢階級、動作能力類型別、全数との比較

全数と比較して「付き合いがない」の割合が高く、特に65歳～74歳の男性は3割

ひとりぐらし高齢者（938人）の近所付き合いの程度をみると、「立ち話をする程度の人がいる」の割合が34.3%と最も高くなっている。

性・年齢階級別にみると、「付き合いがない」の割合は、男性27.4%、女性11.0%で男性の方が16.4ポイント高くなっている。特に、男性65歳～74歳は33.2%で、3割となっている。

全数と比較すると、「付き合いがない」の割合は16.6%で、6.6ポイント高くなっている。

(表11-10)

表11-10 近所付き合いの程度－性・年齢階級、動作能力類型別、全数との比較

		総 数	が お 互 い に 訪 問 し 合 う 人	が 立 ち 話 を す る 程 度 の 人	人 あ い さ つ を す る 程 度 の	付 き 合 い が な い	無 回 答
ひとりぐらし高齢者		100.0 (938)	21.7	<u>34.3</u>	25.9	<u>16.6</u>	1.4
性・ 年齢 階級 別	男	100.0 (321)	9.7	27.1	34.6	<u>27.4</u>	1.2
	65～74歳	100.0 (193)	8.3	26.4	31.6	<u>33.2</u>	0.5
	75歳以上	100.0 (128)	11.7	28.1	39.1	18.8	2.3
	女	100.0 (617)	28.0	38.1	21.4	<u>11.0</u>	1.5
	65～74歳	100.0 (263)	24.3	36.5	24.7	12.5	1.9
	75歳以上	100.0 (354)	30.8	39.3	18.9	9.9	1.1
動 作 能 力 類 型 別	寝たきりなど的高齢者	100.0 (73)	16.4	15.1	31.5	32.9	4.1
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (90)	23.3	31.1	27.8	16.7	1.1
	軽い障害のある高齢者	100.0 (213)	18.3	40.4	26.3	13.1	1.9
	障害のない高齢者	100.0 (544)	23.5	35.3	24.8	15.8	0.6
全数		100.0 (4,390)	18.7	40.8	29.4	<u>10.0</u>	1.1
22年度		100.0 (899)	22.8	35.3	26.3	14.5	1.2

(3) 心配ごとや悩みごとの内容〔複数回答〕一性・年齢階級、動作能力類型別

「自分の健康・病気」の割合が最も高く、54.8%

ひとりぐらし高齢者（938人）の心配ごとや悩みごとの内容をみると、「自分の健康・病気」の割合が最も高く54.8%、次いで「生活費や経済的なこと」が23.3%、「年金・介護・医療など社会保障給付の水準」が22.7%となっている。一方で「心配ごとや悩みごとはない」の割合は24.4%となっている。

性別でみると、「地震などの災害にあうこと」の割合は、男性14.0%、女性26.1%で、女性の方が12.1ポイント高くなっている。

動作能力類型別にみると、「自分の健康・病気」の割合は、比較的重い障害のある高齢者が67.8%で最も高くなっている。（表11-11）

表 11-11 心配ごとや悩みごとの内容〔複数回答〕一性・年齢階級、動作能力類型別

	総数	自分の健康・病気	配偶者や家族の健康・病気	家族や親族との人間関係	相談したり、頼れる人がいなく、一人きりである	地域の人たちとの関係	生活費や経済的なこと	年金・介護・医療など社会保障給付の水準	住宅に関すること	仕事に関すること	財産管理や相続のこと	犯罪に巻き込まれること	地震などの災害にあうこと	将来の生活のこと	将来、配偶者に先立たれた	自分の死後の配偶者や子供の将来	墓の管理	その他	心配ごとや悩みごとはない	無回答
ひとりぐらし高齢者	100.0 (938)	54.8	9.3	6.1	6.6	2.3	23.3	22.7	11.5	4.5	5.9	6.0	22.0	0.7	4.5	6.0	1.9	24.4	3.3	
性・年齢階級別	男	100.0 (321)	52.0	6.5	6.2	9.3	0.9	24.3	22.4	12.5	6.5	7.5	1.6	14.0	0.9	4.4	8.7	3.4	26.8	1.6
	65～74歳	100.0 (193)	52.8	4.7	6.7	8.8	1.0	28.0	23.8	13.5	9.8	6.7	2.1	13.5	1.6	4.1	8.8	3.6	23.3	1.6
	75歳以上	100.0 (128)	50.8	9.4	5.5	10.2	0.8	18.8	20.3	10.9	1.6	8.6	0.8	14.8	-	4.7	8.6	3.1	32.0	1.6
	女	100.0 (617)	56.2	10.7	6.0	5.2	3.1	22.9	22.9	11.0	3.4	5.0	8.3	26.1	0.6	4.5	4.5	1.1	23.2	4.2
	65～74歳	100.0 (263)	57.4	9.9	7.6	6.8	3.4	32.7	32.7	16.7	8.0	6.1	9.5	27.4	0.8	4.2	6.5	0.4	16.3	2.7
	75歳以上	100.0 (354)	55.4	11.3	4.8	4.0	2.8	15.5	15.5	6.8	-	4.2	7.3	25.1	0.6	4.8	3.1	1.7	28.2	5.4
動作能力類型別	寝たきりなど的高齢者	100.0 (73)	45.2	6.8	1.4	5.5	1.4	17.8	11.0	4.1	-	4.1	2.7	17.8	-	1.4	2.7	2.7	26.0	23.3
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (90)	67.8	14.4	10.0	12.2	5.6	25.6	21.1	15.6	-	6.7	6.7	25.6	-	13.3	12.2	2.2	13.3	2.2
	軽い障害のある高齢者	100.0 (213)	59.2	10.3	6.1	9.4	2.3	29.6	28.2	11.7	4.2	7.0	9.4	24.4	0.9	6.6	7.5	0.9	23.9	2.8
	障害のない高齢者	100.0 (544)	52.2	8.1	6.1	4.8	2.0	21.5	23.0	11.9	5.7	5.3	5.1	20.8	0.7	2.8	4.8	2.0	26.3	0.7
全数	100.0 (4,390)	52.9	38.5	7.9	2.1	2.1	18.5	21.9	10.0	4.0	6.2	6.2	23.1	15.2	14.8	6.4	1.2	20.5	5.7	

(4) 心配ごとや悩みごとの相談相手〔複数回答〕－全数との比較、性・年齢階級別

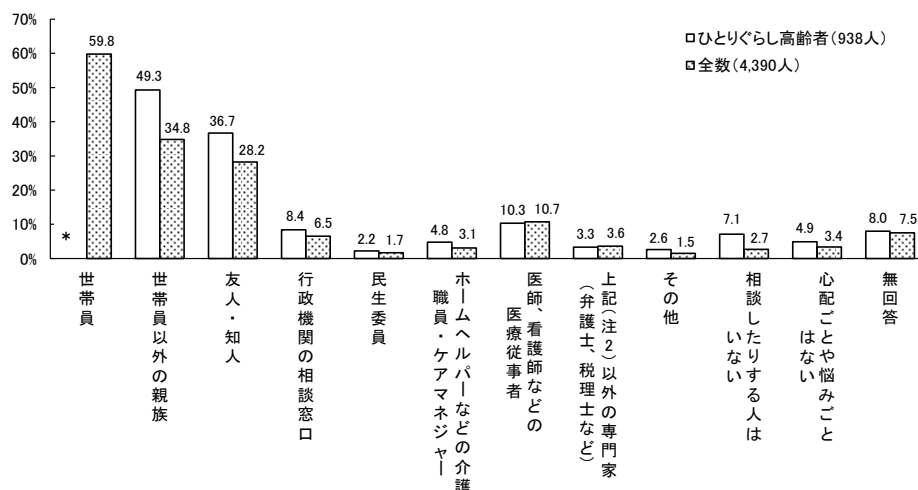
心配ごとや悩みごとを「相談したりする人はいない」の割合は7.1%で、全数より高い

ひとりぐらし高齢者（938人）の心配ごとや悩みごとの相談相手をみると、「世帯員以外の親族」が49.3%で最も高く、次いで「友人・知人」が36.7%となっている。（図11-11）

全数と比較すると、「世帯員以外の親族」が14.5ポイント、「友人・知人」は8.5ポイントそれぞれ高くなっている。また「相談したりする人はいない」は7.1%で、4.4ポイント高くなっている。

性・年齢階級別にみると「友人・知人」の割合は、男性の前期高齢者（65～74歳）が41.5%、女性の前期高齢者が47.9%で、男女ともに後期高齢者（75歳以上）に比べて高くなっている。（表11-12）

図11-11 心配ごとや悩みごとの相談相手〔複数回答〕－全数との比較



注1) * ひとりぐらし高齢者のため、世帯員はいない。
 2) 上記とは、「医師、看護師などの医療従事者」を指す。

表11-12 心配ごとや悩みごとの相談相手〔複数回答〕－性・年齢階級別

	総数	世帯員以外の親族	友人・知人	行政機関の相談窓口	民生委員	ホームヘルパーなどの職員・ケアマネジャー	医師・看護師などの医療従事者	上記(注)以外の専門家(弁護士、税理士など)	その他	相談したりする人はいない	心配ごとや悩みごとはない	無回答	
ひとりぐらし高齢者	100.0 (938)	49.3	36.7	8.4	2.2	4.8	10.3	3.3	2.6	7.1	4.9	8.0	
性・年齢階級別	男	100.0 (321)	35.2	34.9	12.1	3.1	3.4	7.2	4.7	2.5	11.8	8.4	6.9
	65～74歳	100.0 (193)	35.8	<u>41.5</u>	11.4	3.1	3.1	6.2	5.2	3.1	13.0	6.7	5.7
	75歳以上	100.0 (128)	34.4	<u>25.0</u>	13.3	3.1	3.9	8.6	3.9	1.6	10.2	10.9	8.6
	女	100.0 (617)	56.6	37.6	6.5	1.8	5.5	12.0	2.6	2.6	4.7	3.1	8.6
	65～74歳	100.0 (263)	50.2	<u>47.9</u>	8.7	0.8	3.4	10.6	2.7	3.0	4.2	3.0	8.0
	75歳以上	100.0 (354)	61.3	<u>29.9</u>	4.8	2.5	7.1	13.0	2.5	2.3	5.1	3.1	9.0

注) 上記とは、「医師、看護師などの医療従事者」を指す。

(5) 1年間に行った活動の状況〔複数回答〕－性・年齢階級別、全数との比較

「活動はしていない」男性の割合は、全数と比較して高い

ひとりぐらし高齢者（938人）がこの1年間に行った活動の状況をみると、「活動している」割合は、41.8%となっている。

性別でみると、「活動はしていない」の割合は、男性が61.4%で、全数の男性（46.9%）と比較すると、14.5ポイント高くなっている。（表11-13）

表11-13 1年間に行った活動の状況〔複数回答〕－性・年齢階級別、全数との比較

	総数	活動している	趣味・学習・スポーツ活動	自治会、町内会、団体などの役員・事務局活動	地域行事を支援する活動	環境保全、環境美化、リサイクルなどの活動	地域の伝統や文化を伝える活動	防犯や災害時の救援・支援をする活動	一人暮らしなど見守りが必要な高齢者を支援する活動	障害のある人を支援する活動	青少年の健全な成長・非行防止のため	介護が必要な高齢者を支援する活動	子育てを支援する活動	外国人を支援する活動	その他	活動はしていない	無回答	
ひとりぐらし高齢者	100.0 (938)	41.8	33.9	11.0	7.6	5.1	1.5	3.4	2.8	1.6	0.7	2.3	0.7	0.4	1.0	51.0	7.2	
性別	男	100.0 (321)	33.3	25.9	8.1	5.0	3.1	1.2	3.1	2.2	0.6	0.3	1.9	0.3	0.3	1.2	61.4	5.3
	女	100.0 (617)	46.2	38.1	12.5	8.9	6.2	1.6	3.6	3.1	2.1	1.0	2.6	1.0	0.5	0.8	45.5	8.3
年齢階級別	65～69歳	100.0 (242)	37.2	30.2	5.4	7.0	4.5	2.1	2.9	2.1	2.5	1.2	1.7	0.8	-	1.2	52.5	10.3
	70～74歳	100.0 (214)	45.3	36.0	14.5	7.9	4.7	0.9	4.2	3.3	0.9	-	3.7	0.9	0.9	1.4	48.6	6.1
	75～79歳	100.0 (205)	42.0	35.6	11.7	6.8	6.3	1.0	3.9	2.9	1.5	1.5	2.0	0.5	0.5	-	51.2	6.8
	80～84歳	100.0 (164)	47.0	36.0	15.2	6.7	6.1	1.2	3.0	2.4	1.2	0.6	1.2	0.6	0.6	1.8	47.6	5.5
	85歳以上	100.0 (113)	37.2	31.9	8.8	10.6	3.5	2.7	2.7	3.5	1.8	-	3.5	0.9	-	-	56.6	6.2
全数	100.0 (4,390)	46.4	36.4	15.2	12.7	7.8	3.9	6.2	3.0	1.9	2.1	2.5	1.6	0.7	0.9	45.9	7.7	
性別	男	100.0 (1,949)	45.9	34.3	17.3	13.8	8.0	4.6	7.6	2.3	1.9	3.0	2.2	1.4	0.9	1.0	46.9	7.2
	女	100.0 (2,441)	46.8	38.0	13.4	11.9	7.7	3.4	5.0	3.5	2.0	1.4	2.8	1.8	0.6	0.8	45.1	8.1

(6) 今後の活動意向〔複数回答〕－性・年齢階級別、全数との比較

「今後も参加予定はない」男性の割合は、全数と比較して高い

ひとりぐらし高齢者（938人）の今後の活動意向をみると、「趣味・学習・スポーツ活動」の割合が最も高く31.7%となっている。

性別でみると、男女とも「今後も参加予定はない」の割合が最も高く、男性56.7%、女性37.4%で男性の方が19.3ポイント高くなっている。

男性で比較すると、全数（39.9%）より16.8ポイント高くなっている。（表11-14）

表11-14 今後の活動意向〔複数回答〕－性・年齢階級別、全数との比較

	総数	趣味・学習・スポーツ活動	自治会、町内会、老人クラブ、NPO	地域行事を支援する活動	環境保全、環境美化、リサイクルなどの活動	地域の伝統や文化を伝える活動	防犯や災害時の救援・支援をする活動	一人暮らしなど見守りが必要な高齢者を支援する活動	障害のある人を支援する活動	青少年の健全な成長・非行防止のため	介護が必要な高齢者を支援する活動	子育てを支援する活動	外国人を支援する活動	その他	今後も参加予定はない	無回答
ひとりぐらし高齢者	100.0 (938)	31.7	7.9	7.7	6.5	2.8	4.5	6.0	3.0	2.5	4.2	2.6	2.1	1.5	44.0	13.5
性別	男 (321)	22.4	5.3	5.6	5.0	2.2	5.6	5.3	2.5	2.5	3.7	1.9	2.2	1.9	56.7	9.7
	女 (617)	36.5	9.2	8.8	7.3	3.1	3.9	6.3	3.2	2.4	4.4	2.9	2.1	1.3	37.4	15.6
年齢階級別	65～69歳 (242)	31.8	4.1	9.1	6.6	2.9	5.0	6.2	1.7	2.5	3.3	2.1	1.7	1.2	43.0	14.5
	70～74歳 (214)	32.7	9.3	6.5	7.0	3.7	5.6	6.5	4.2	3.7	6.5	4.7	3.3	2.8	43.0	11.7
	75～79歳 (205)	32.7	9.3	7.3	7.8	3.9	5.4	8.3	5.4	3.9	4.9	2.9	2.9	1.0	43.4	11.2
	80～84歳 (164)	32.9	10.4	7.3	6.7	0.6	3.0	3.0	1.2	0.6	1.2	1.2	1.2	1.8	43.9	12.2
	85歳以上 (113)	25.7	7.1	8.0	2.7	1.8	1.8	4.4	1.8	-	4.4	0.9	0.9	-	49.6	21.2
全数	100.0 (4,390)	33.8	10.5	10.3	8.8	5.5	6.7	6.2	3.6	4.2	4.6	4.0	2.7	1.3	38.7	16.0
性別	男 (1,949)	30.9	12.1	11.2	9.4	6.3	8.6	5.9	4.0	5.7	4.3	3.6	3.6	1.2	39.9	16.5
	女 (2,441)	36.1	9.3	9.5	8.2	4.8	5.3	6.3	3.2	3.0	4.8	4.3	1.9	1.4	37.8	15.6

7 就業・経済

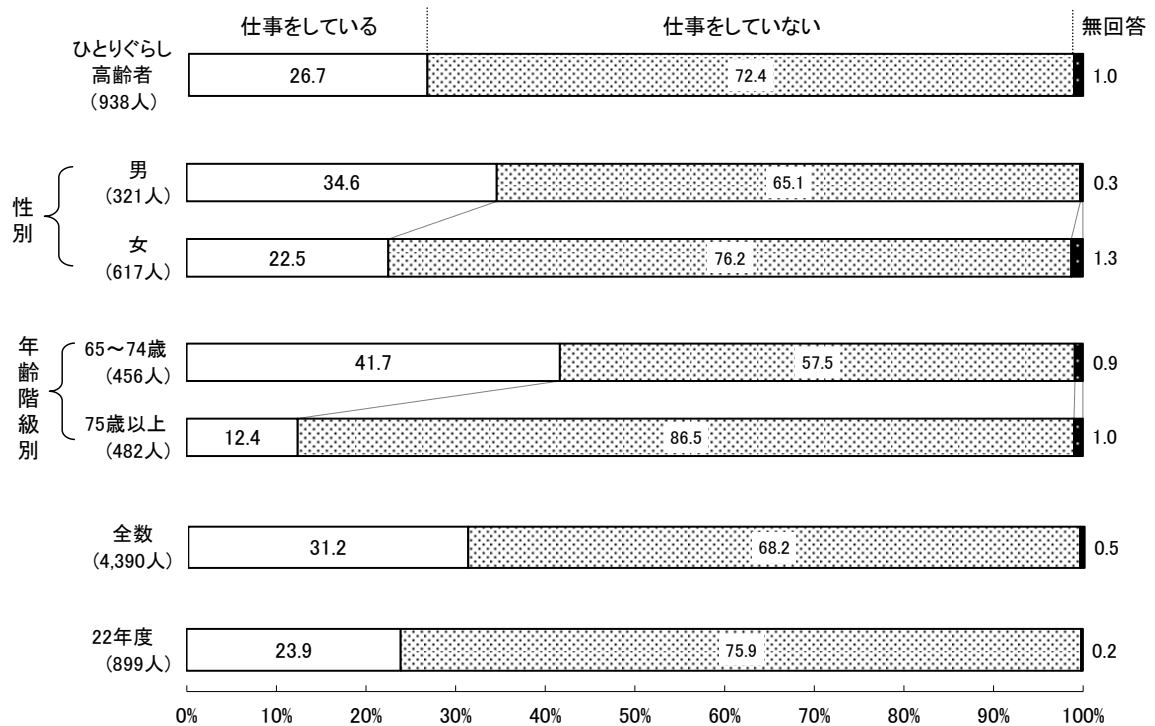
(1) 収入のある仕事の有無一性・年齢階級別、全数、22年度調査との比較

「仕事をしている」割合が全数と比べて低い

ひとりぐらし高齢者（938人）の収入のある仕事の有無をみると、「仕事をしている」割合は26.7%、「仕事をしていない」割合は72.4%となっている。

全数と比較すると、「仕事をしている」割合は、4.5ポイント低いですが、22年度調査（23.9%）と比較すると、2.8ポイント高くなっている。（図11-12）

図11-12 収入のある仕事の有無一性・年齢階級別、全数、22年度調査との比較



(2) 収入のある仕事の内容－性・年齢階級別、全数との比較

全数と比較して「契約・派遣・臨時・パート」の割合が高い

ひとりぐらし高齢者（938人）で収入のある仕事をしている人（250人）の仕事（複数している場合は、収入の最も多いもの）の内容をみると、「契約・派遣・臨時・パート」が34.0%で最も高く、次いで「自営業（家族従業者を含む）」が23.2%、「正規の職員・従業員」が11.6%と続いている。

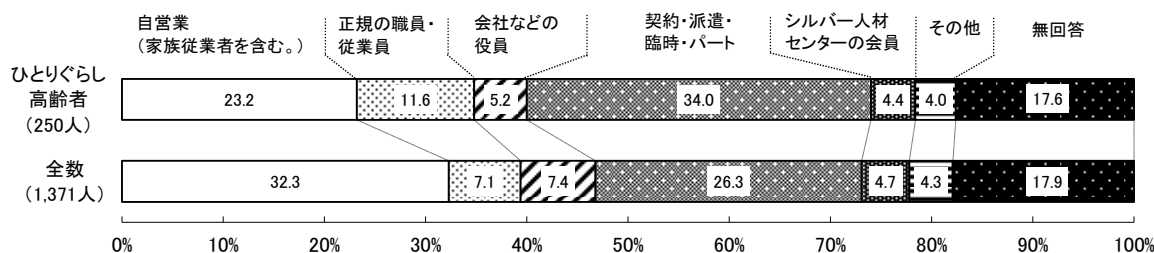
性・年齢階級別にみると、「契約・派遣・臨時・パート」の割合は、女性の前期高齢者（65～74歳）が47.2%で最も高くなっている。（表11-15）

全数と比較すると、「契約・派遣・臨時・パート」の割合は、7.7ポイント高くなっている。（図11-13）

表 11-15 収入のある仕事の内容－性・年齢階級別

		総数	自営業 (家族従業者を含む。)	正規の職員・従業員	会社などの役員	契約・派遣・臨時・パート	シルバー人材センターの会員	その他	無回答
ひとりぐらし高齢者		100.0 (250)	23.2	11.6	5.2	34.0	4.4	4.0	17.6
性・年齢階級別	男	100.0 (111)	23.4	16.2	8.1	26.1	3.6	3.6	18.9
	65～74歳	100.0 (82)	22.0	19.5	4.9	28.0	2.4	2.4	20.7
	75歳以上	100.0 (29)	27.6	6.9	17.2	20.7	6.9	6.9	13.8
	女	100.0 (139)	23.0	7.9	2.9	40.3	5.0	4.3	16.5
	65～74歳	100.0 (108)	19.4	10.2	1.9	47.2	3.7	1.9	15.7
	75歳以上	100.0 (31)	35.5	-	6.5	16.1	9.7	12.9	19.4

図 11-13 収入のある仕事の内容－全数との比較



(3) 本人の年収一性・年齢階級、収入のある仕事の有無別

「100万円以上 150万円未満」の割合が最も高く、約2割

ひとりぐらし高齢者（938人）の平成26年中の総収入（税込み）をみると、「100万円以上 150万円未満」の割合が最も高く18.4%、次いで「150万円以上 200万円未満」が17.7%、「200万円以上 250万円未満」が15.4%、「50万円以上 100万円未満」が15.2%となっている。（表11-16）

表11-16 本人の年収一性・年齢階級、収入のある仕事の有無別

		総 数	5 0 万 円 未 満	1 5 0 0 万 円 以 上 未 満	1 1 5 0 万 円 未 以 上	2 1 0 5 万 円 未 以 上	2 2 5 0 万 円 未 以 上	3 2 0 5 万 円 未 以 上	5 3 0 0 万 円 未 以 上	5 0 万 円 以 上	無 回 答
ひとりぐらし高齢者		100.0 (938)	3.6	15.2	18.4	17.7	15.4	9.3	8.4	5.7	6.3
性・ 年齢 階級 別	男	100.0 (321)	3.4	12.5	13.7	19.9	15.0	11.2	11.8	7.5	5.0
	65～69歳	100.0 (113)	5.3	8.8	10.6	23.0	16.8	11.5	9.7	8.0	6.2
	70～74歳	100.0 (80)	2.5	17.5	12.5	18.8	15.0	10.0	12.5	8.8	2.5
	75～79歳	100.0 (72)	1.4	12.5	16.7	23.6	11.1	9.7	12.5	5.6	6.9
	80～84歳	100.0 (32)	3.1	15.6	15.6	15.6	15.6	9.4	15.6	9.4	-
	85歳以上	100.0 (24)	4.2	8.3	20.8	4.2	16.7	20.8	12.5	4.2	8.3
	女	100.0 (617)	3.7	16.7	20.9	16.5	15.6	8.3	6.6	4.7	7.0
	65～69歳	100.0 (129)	1.6	10.9	20.9	14.7	15.5	13.2	7.8	5.4	10.1
	70～74歳	100.0 (134)	5.2	14.9	26.1	16.4	15.7	8.2	6.0	6.0	1.5
	75～79歳	100.0 (133)	4.5	20.3	20.3	18.0	16.5	8.3	3.8	3.8	4.5
	80～84歳	100.0 (132)	3.8	18.9	18.9	14.4	18.2	6.8	9.1	2.3	7.6
	85歳以上	100.0 (89)	3.4	19.1	16.9	20.2	10.1	3.4	6.7	6.7	13.5
有 無 別 の あ る 収 入 の あ り 方	仕事をしている	100.0 (250)	2.0	9.2	12.8	13.6	20.4	11.6	15.2	13.6	1.6
	仕事をしていない	100.0 (679)	4.3	17.2	20.6	19.3	13.5	8.5	5.9	2.8	7.8
全数		100.0 (4,390)	5.7	18.7	13.4	11.9	12.4	9.7	13.1	9.1	6.1

(4) 収入の種類〔複数回答〕一性・年齢階級別、全数との比較

全数と比較して「生活保護」の割合が高く、9.3%

ひとりぐらし高齢者（938人）の平成26年中の収入の種類をみると、「公的な年金・恩給」が85.6%で最も高くなっている。

全数と比較すると、「生活保護」の割合は9.3%で、6.3ポイント高くなっている。特に男性の割合が14.6%で、1割を超えている。（表11-17）

表11-17 収入の種類〔複数回答〕一性・年齢階級別、全数との比較

	総数	公的な年金・恩給	私的な年金	仕事による収入	家賃・地代・配当金	仕送り	手当	生活保護	その他	収入はない	無回答	
ひとりぐらし高齢者	100.0 (938)	85.6	13.2	23.7	11.1	1.7	0.6	9.3	0.5	1.1	1.2	
性・年齢階級別	男	100.0 (321)	77.9	13.4	33.3	10.9	0.9	1.2	14.6	0.3	1.2	0.6
	65～69歳	100.0 (113)	73.5	14.2	48.7	11.5	0.9	0.9	11.5	-	2.7	0.9
	70～74歳	100.0 (80)	77.5	16.3	35.0	7.5	-	2.5	20.0	-	1.3	-
	75～79歳	100.0 (72)	81.9	11.1	25.0	8.3	1.4	1.4	16.7	1.4	-	1.4
	80～84歳	100.0 (32)	81.3	9.4	9.4	25.0	3.1	-	9.4	-	-	-
	85歳以上	100.0 (24)	83.3	12.5	12.5	8.3	-	-	12.5	-	-	-
	女	100.0 (617)	89.6	13.1	18.6	11.2	2.1	0.3	6.5	0.6	1.0	1.5
	65～69歳	100.0 (129)	82.2	17.8	44.2	9.3	1.6	0.8	7.0	-	1.6	4.7
	70～74歳	100.0 (134)	92.5	21.6	30.6	10.4	3.0	-	7.5	-	0.7	0.7
	75～79歳	100.0 (133)	91.7	8.3	6.8	9.8	1.5	0.8	7.5	1.5	0.8	-
	80～84歳	100.0 (132)	90.2	6.8	5.3	12.9	2.3	-	6.1	1.5	1.5	0.8
	85歳以上	100.0 (89)	92.1	10.1	1.1	14.6	2.2	-	3.4	-	-	1.1
全数	100.0 (4,390)	89.5	14.1	28.2	12.9	1.0	0.2	3.0	0.8	1.4	1.0	

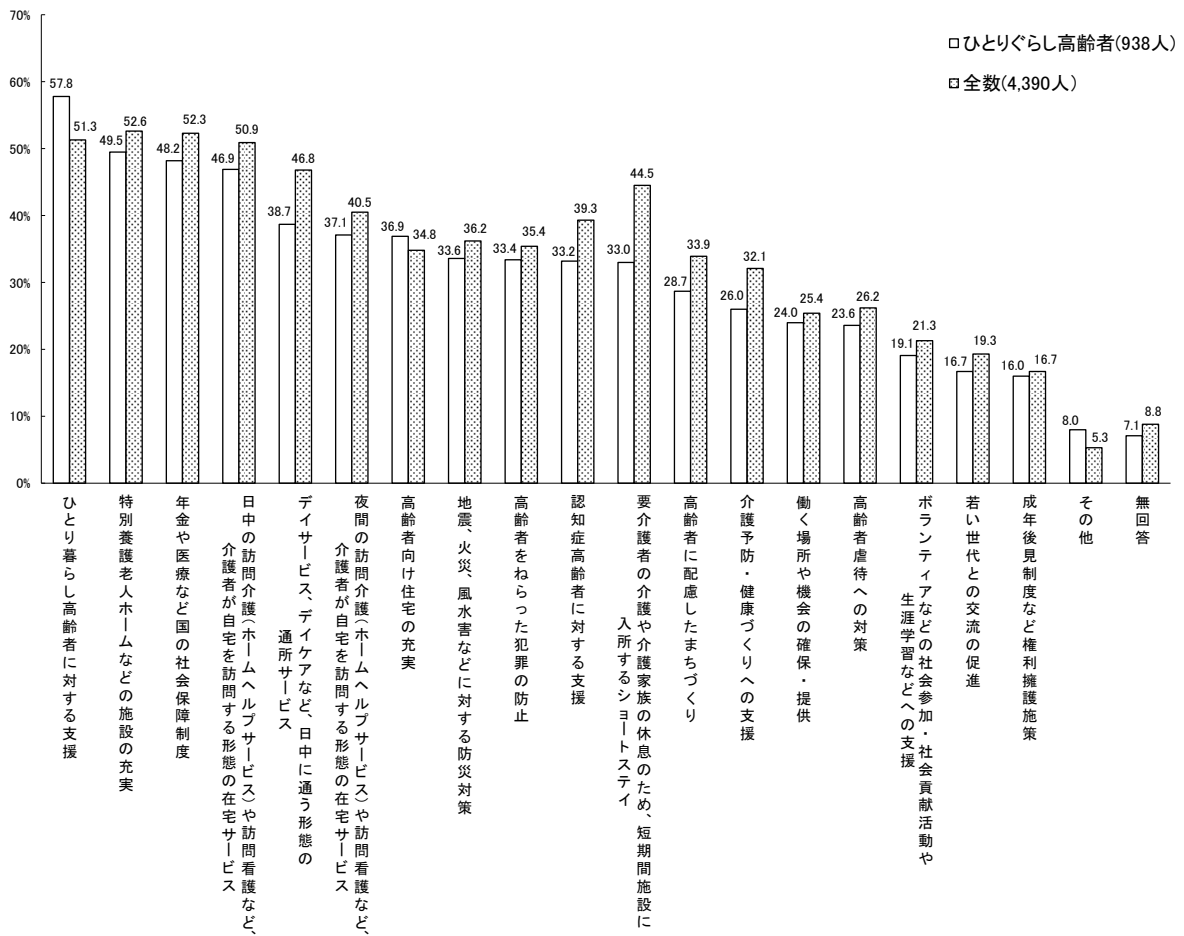
8 高齢者に対する必要な施策や支援〔複数回答〕

全数と比較して、「ひとり暮らし高齢者に対する支援」の割合が高い

ひとり暮らし高齢者（938人）が大切だと思う高齢者に対する必要な施策や支援は、「ひとり暮らし高齢者に対する支援」が57.8%で最も高く、次いで「特別養護老人ホームなどの施設の充実」が49.5%、「年金や医療など国の社会保障制度」が48.2%と続いている。

全数と比較すると、「ひとり暮らし高齢者に対する支援」の割合は、6.5ポイント高くなっている。（図11-14）

図11-14 高齢者に対する必要な施策や支援〔複数回答〕－全数との比較



第12章 高齢者夫婦のみの世帯の生活実態

本章では、対象者本人及び配偶者とも、65歳以上の夫婦のみによって構成されている「高齢者夫婦のみの世帯」の人（1,453人）の生活実態を、1 世帯の概況、2 家族、3 健康、4 介護保険制度、5 住まい、6 コミュニケーション、7 就業・経済、8 高齢者に対する必要な施策や支援の8つの側面から概観する。

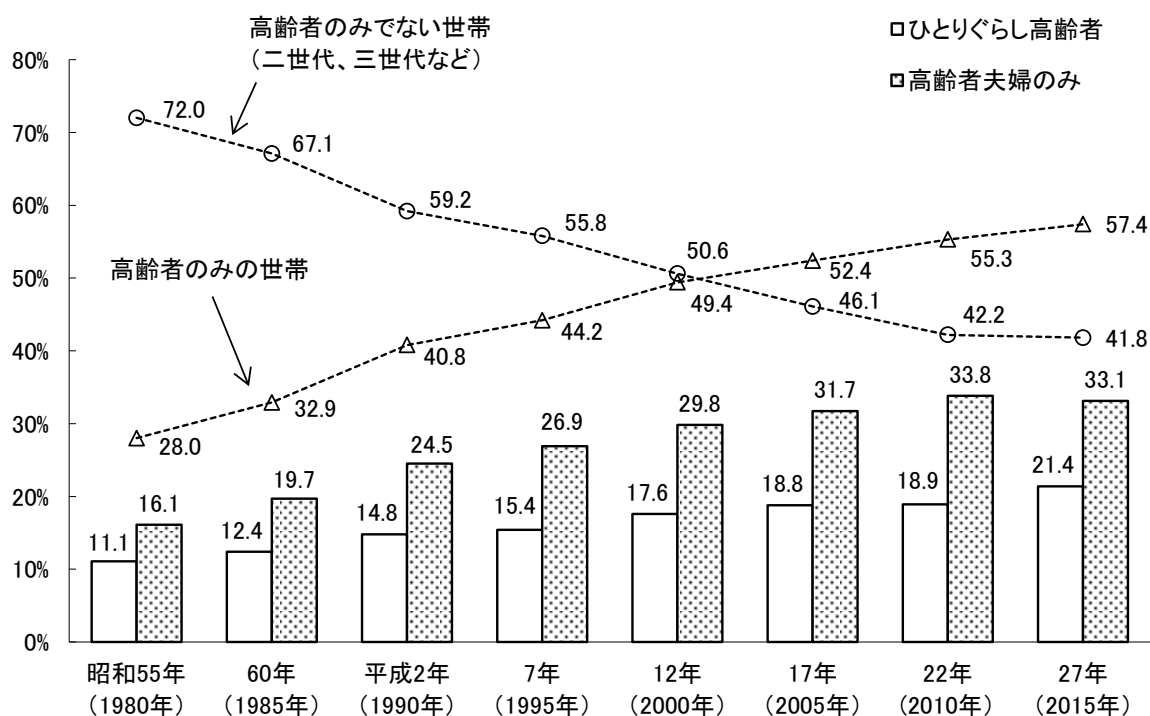
1 高齢者夫婦のみの世帯の概況

(1) 高齢者夫婦のみの世帯の推移

高齢者夫婦のみの世帯は、全体の約3割

「高齢者夫婦のみの世帯」の割合は、調査を開始した昭和55年から一貫して増加し続けていたが、22年度調査から0.7ポイント減少した。なお、昭和55年の16.1%と比較すると約2倍に増えている。（図12-1）

図12-1 「高齢者夫婦のみ」及び「ひとりぐらし高齢者」の割合の推移



(2) 年齢階級一性別、全数との比較

75歳以上の割合は、男性51.8%、女性は37.6%

高齢者夫婦のみの世帯の人(1,453人)の年齢階級は、前期高齢者(65～74歳)が55.2%、後期高齢者(75歳以上)が44.8%となっている。

性別で見ると、後期高齢者の割合は男性51.8%、女性37.6%で、全数(男性42.8%、女性49.1%)と比較すると、男性は9.0ポイント高く、女性は11.5ポイント低くなっている。(表12-1)

表12-1 年齢階級一性別、全数との比較

	総 数	6 5 5 6 9 歳	7 0 5 7 4 歳	7 5 7 9 歳	8 0 5 8 4 歳	8 5 歳 以 上	7 (再 5 歳 掲 以 上)	平 均
高齢者夫婦のみ	100.0 (1,453)	26.4 28.8 55.2		23.7	14.3	6.8	44.8	74.4
男	100.0 (735)	19.7	28.4	25.7	17.3	8.8	51.8	75.5
女	100.0 (718)	33.1	29.2	21.6	11.3	4.7	37.6	73.3
全数	100.0 (4,390)	28.7 25.0 53.7		21.2	14.9	10.2	46.3	74.8
男	100.0 (1,949)	31.3	25.9	21.4	13.0	8.4	42.8	74.1
女	100.0 (2,441)	26.5	24.4	21.1	16.4	11.6	49.1	75.3

注)全数とは、今回調査における高齢者全体のことをいう(高齢者夫婦のみの世帯も含む)。

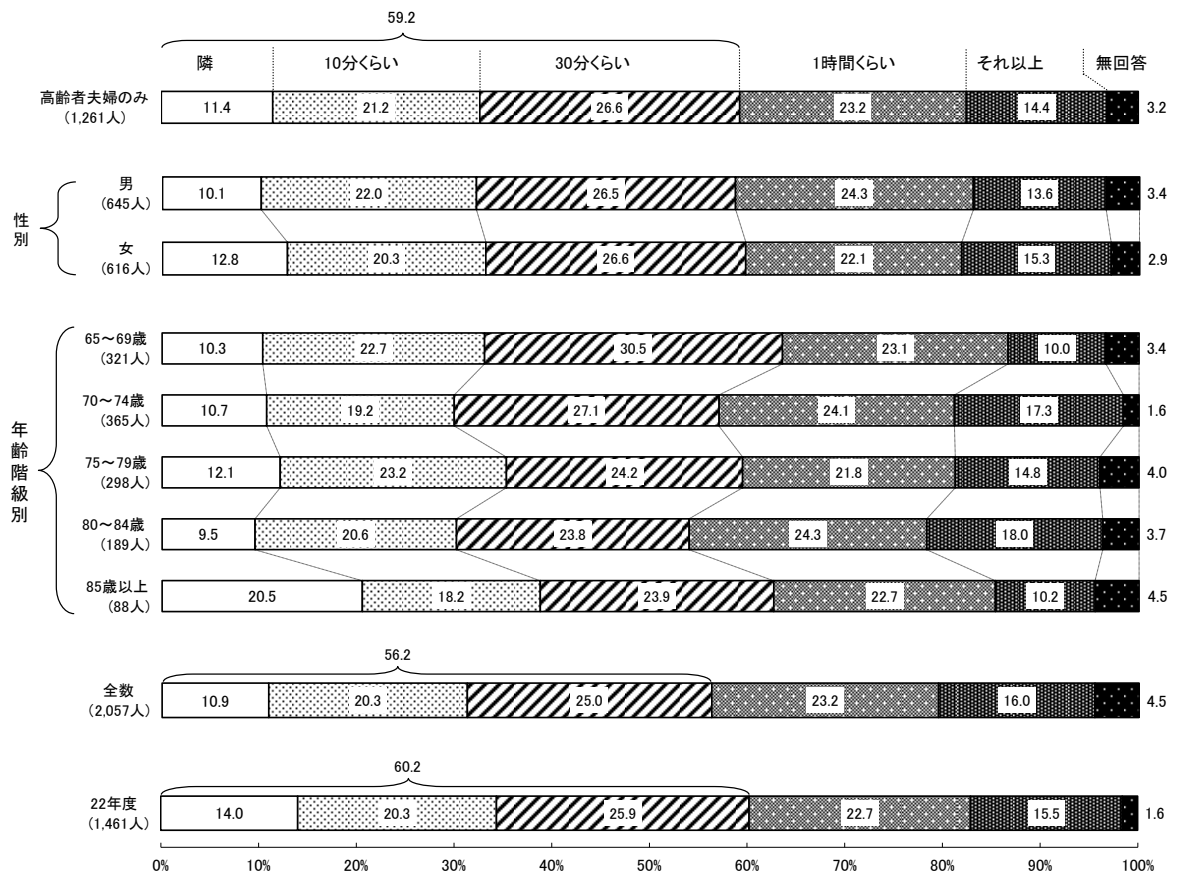
2 家族

(1) 別居している子供との距離一性・年齢階級別

子供との距離が30分くらいまで（「隣」、「10分くらい」、「30分くらい」の合計）の割合は、6割

子供と別居している高齢者夫婦のみの世帯の人（1,261人）と、一番近くに住んでいる子供との距離をみると、「隣」「10分くらい」「30分くらい」を合計した割合は59.2%で、6割となっている。（図12-2）

図12-2 別居している子供との距離一性・年齢階級別



注) 時間は通常行き来する方法による。

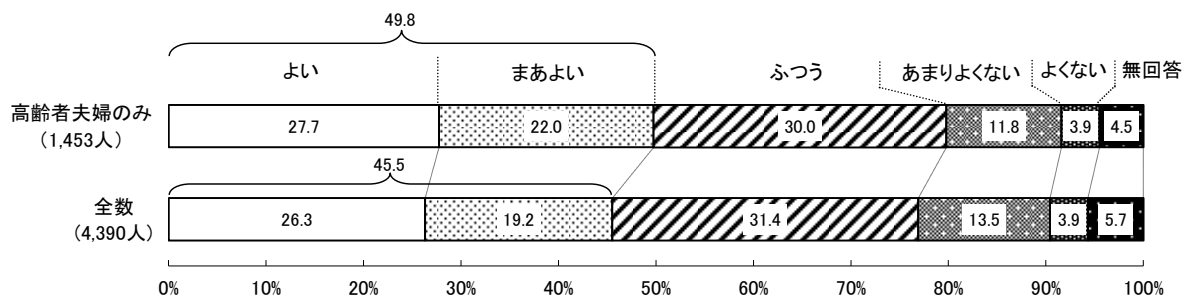
3 健康

(1) 健康意識

健康状態を「よい」と「まあよい」と感じている人の割合は、合わせて5割

高齢者夫婦のみの世帯の人（1,453人）の健康状態をみると、「ふつう」の割合が最も高く30.0%、次いで「よい」が27.7%となっている。「よい」と「まあよい」を合わせた割合は49.8%となっている。（図12-3）

図12-3 健康意識



注) 統計比率を合算した比率は、実数を用いて算出しているため、各比率を単純に合算した比率とは一致しない場合がある。

4 介護保険制度

(1) 要介護認定（要支援認定を含む。）申請の有無－全数、ひとりぐらし高齢者との比較

「認定を申請していない」の割合は、約9割

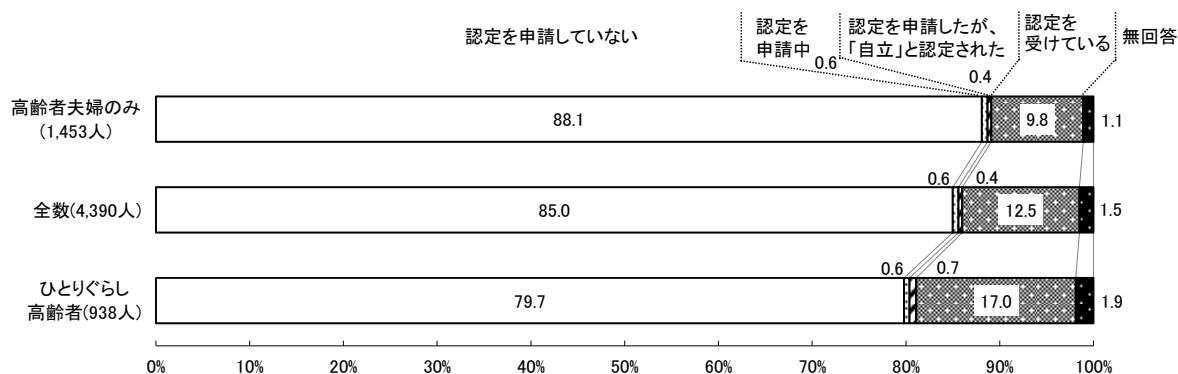
高齢者夫婦のみの世帯の人（1,453人）における介護保険制度の要介護認定（要支援認定を含む。）申請の有無をみると、「認定を申請していない」の割合は88.1%、「認定を受けている」割合は9.8%となっている。

全数（12.5%）と比較すると、「認定を受けている」割合は、2.7ポイント低くなっている。また、ひとりぐらし高齢者（17.0%）と比較すると、7.2ポイント低くなっている。

（図12-4）

図12-4 要介護認定（要支援認定を含む。）申請の有無

－全数、ひとりぐらし高齢者との比較



(2) 要支援・要介護度一性・年齢階級、動作能力類型別、全数、ひとりぐらし高齢者との比較

「要支援1」の割合が最も高く、約3割

高齢者夫婦のみの世帯の人(1,453人)で、要介護認定(要支援認定を含む。)を受けている人(143人)の要支援・要介護度をみると、「要支援1」の割合が最も高く28.7%、次いで「要介護2」が20.3%、「要介護1」が15.4%となっている。

全数と比較すると、「要支援1」の割合は4.4ポイント高く、「要介護2」は2.2ポイント高く、「要介護1」は2.3ポイント低くなっている。

ひとりぐらし高齢者と比較すると、「要介護3」の割合は5.4ポイント高くなっている。

(表12-2)

表12-2 要支援・要介護度

一性・年齢階級、動作能力類型別、全数、ひとりぐらし高齢者との比較

		総数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	無回答
高齢者夫婦のみ		100.0 (143)	<u>28.7</u>	13.3	<u>15.4</u>	<u>20.3</u>	<u>9.8</u>	7.0	2.1	3.5
性別	男	100.0 (81)	18.5	17.3	18.5	18.5	12.3	8.6	1.2	4.9
	女	100.0 (62)	41.9	8.1	11.3	22.6	6.5	4.8	3.2	1.6
年齢階級別	65~74歳	100.0 (26)	30.8	7.7	11.5	30.8	3.8	3.8	11.5	-
	75歳以上	100.0 (117)	28.2	14.5	16.2	17.9	11.1	7.7	-	4.3
動作能力類型別	寝たきりなど的高齢者	100.0 (74)	8.1	8.1	13.5	35.1	14.9	13.5	4.1	2.7
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (17)	41.2	17.6	11.8	17.6	5.9	-	-	5.9
	軽い障害のある高齢者	100.0 (24)	54.2	20.8	25.0	-	-	-	-	-
	障害のない高齢者	100.0 (24)	54.2	16.7	16.7	-	4.2	-	-	8.3
全数		100.0 (547)	<u>24.3</u>	16.6	<u>17.7</u>	<u>18.1</u>	11.0	6.6	2.9	2.7
ひとりぐらし高齢者		100.0 (159)	26.4	18.9	22.0	20.1	<u>4.4</u>	5.0	-	3.1

(3) 介護の状況（高齢者夫婦のみの世帯の人が介護を受けている状況）

ア 介護をしている人〔複数回答〕－性別、全数との比較

「配偶者」が介護をしている割合が最も高く、8割

高齢者夫婦のみの世帯の人（1,453人）で、要介護認定（要支援認定を含む。）を受けている人のうち、介護を受けている人（119人）を誰が介護しているかについてみると、「配偶者」の割合が最も高く82.4%、次いで「ホームヘルパーなどの介護職員」が31.1%となっている。

全数と比較すると、「配偶者」の割合は44.2ポイント高く、「子供」の割合は29.3ポイント低くなっている。（表12-3）

表 12-3 介護をしている人〔複数回答〕－性別、全数との比較

		総数	配偶者	子供	子供の配偶者	孫またはその配偶者	兄弟姉妹	1～5以外の親族	介護職員 ホームヘルパーなどの	訪問看護師	近所の人	その他
高齢者夫婦のみ		100.0 (119)	<u>82.4</u>	<u>18.5</u>	3.4	0.8	0.8	1.7	<u>31.1</u>	7.6	0.8	-
性別	男	100.0 (74)	89.2	13.5	4.1	-	1.4	2.7	32.4	9.5	-	-
	女	100.0 (45)	71.1	26.7	2.2	2.2	-	-	28.9	4.4	2.2	-
全数		100.0 (427)	<u>38.2</u>	<u>47.8</u>	15.0	4.2	3.3	2.8	34.9	8.2	0.7	1.6

イ 介護をしている人のうち、最も介護している時間が長い人－性別、全数との比較

最も長い時間、介護をしている人は「配偶者」の割合が高く、75.6%

高齢者夫婦のみの世帯の人（1,453人）で、要介護認定（要支援認定を含む。）を受けている人のうち、介護を受けている人（119人）を誰が最も長い時間介護しているかについてみると、「配偶者」の割合が最も高く75.6%、次いで「ホームヘルパーなどの介護職員」が16.0%となっている。

全数と比較すると、「配偶者」の割合は41.6ポイント高く、「ホームヘルパーなどの介護職員」の割合は9.3ポイント低くなっている。（表12-4）

表12-4 介護をしている人のうち、最も介護している時間が長い人－性別、全数との比較

		総数	配偶者	子供	子供の配偶者	孫またはその配偶者	兄弟姉妹	1～5以外の親族	ホームヘルパーなどの介護職員	訪問看護師	近所の人	その他	無回答
高齢者夫婦のみ		100.0 (119)	75.6	5.9	0.8	-	-	0.8	16.0	-	-	-	0.8
性別	男	100.0 (74)	81.1	2.7	-	-	-	1.4	13.5	-	-	-	1.4
	女	100.0 (45)	66.7	11.1	2.2	-	-	-	20.0	-	-	-	-
全数		100.0 (427)	34.0	28.1	7.3	-	1.6	1.2	25.3	0.2	0.2	1.6	0.5

5 住まい

(1) 住宅の種類

「持家」の割合は、8割

高齢者夫婦のみの世帯の人(1,453人)が住んでいる住宅の種類を大別すると、「持家」が8割(80.3%)、「借家・賃貸住宅など」が2割(19.1%)となっている。種類別にみると、「持家(一戸建て)」の割合が最も高く61.7%、次いで「持家(分譲マンションなど)」が18.6%となっている。(表12-5)

表12-5 住宅の種類一性・年齢階級、本人の年収別

	総数	持家	持家		借家・賃貸住宅など	民間賃貸住宅	都・区・市町村の公営賃貸住宅	都市再生機構(旧公団)・会社などの賃貸住宅	借家(一戸建て)	高齢者向け住宅など	その他	無回答	
			持家(一戸建て)	(分譲マンションなど)									
高齢者夫婦のみ	100.0 (1,453)	80.3	61.7	18.6	19.1	8.2	6.5	3.1	1.0	0.2	0.3	0.3	
性別	男	100.0 (735)	78.2	60.3	18.0	21.4	8.7	7.1	4.1	1.4	0.1	0.3	0.1
	女	100.0 (718)	82.5	63.2	19.2	16.7	7.7	6.0	2.1	0.7	0.3	0.4	0.4
年齢階級別	65~69歳	100.0 (383)	80.4	57.7	22.7	19.1	9.1	5.7	2.3	1.6	0.3	-	0.5
	70~74歳	100.0 (419)	79.0	62.1	16.9	20.3	9.5	6.4	3.6	0.7	-	0.7	-
	75~79歳	100.0 (344)	81.4	64.8	16.6	17.7	5.5	7.0	3.8	1.2	0.3	0.3	0.6
	80~84歳	100.0 (208)	78.4	59.1	19.2	21.2	9.6	7.2	3.4	0.5	0.5	0.5	-
	85歳以上	100.0 (99)	85.9	70.7	15.2	14.1	5.1	7.1	1.0	1.0	-	-	-
本人の年収別	50万円未満	100.0 (89)	70.8	48.3	22.5	28.1	12.4	11.2	1.1	3.4	-	-	1.1
	50万円以上 100万円未満	100.0 (303)	82.5	65.0	17.5	16.2	6.9	6.3	2.0	0.7	0.3	1.0	0.3
	100万円以上 150万円未満	100.0 (174)	70.7	58.0	12.6	29.3	13.2	10.3	3.4	1.7	0.6	-	-
	150万円以上 200万円未満	100.0 (123)	72.4	53.7	18.7	27.6	12.2	8.9	5.7	0.8	-	-	-
	200万円以上 250万円未満	100.0 (167)	80.8	64.7	16.2	19.2	6.0	6.6	4.8	1.2	0.6	-	-
	250万円以上 300万円未満	100.0 (156)	81.4	66.7	14.7	17.9	5.8	9.0	2.6	0.6	-	-	0.6
	300万円以上 500万円未満	100.0 (226)	85.8	62.4	23.5	12.8	6.2	3.1	2.7	0.9	-	0.9	0.4
	500万円以上 700万円未満	100.0 (56)	94.6	71.4	23.2	5.4	1.8	1.8	1.8	-	-	-	-
	700万円以上 1,000万円未満	100.0 (29)	96.6	65.5	31.0	3.4	-	-	3.4	-	-	-	-
	1,000万円以上	100.0 (43)	97.7	72.1	25.6	2.3	2.3	-	-	-	-	-	-
全数	100.0 (4,390)	76.4	60.1	16.3	22.6	12.8	5.6	2.4	1.1	0.7	0.6	0.4	
22年度	100.0 (1,611)	80.7	62.8	17.9	18.8	6.1	5.6	5.7	0.9	0.4	0.2	0.3	

注) 統計比率を合算した比率は、実数を用いて算出しているため、各比率を単純に合算した比率とは一致しない場合がある。

(2) 希望する高齢期の住まい（介護が必要にならないうち）

－性・年齢階級、住宅の種類別、全数との比較

「現在の住宅に住み続けたい」割合は、男女とも7割以上

介護保険制度の要介護認定を申請していない高齢者夫婦のみの世帯の人(1,280人)が、介護が必要にならないうちに希望する高齢期の住まいについて、性別で見ると、「現在の住宅に住み続けたい」割合は、男性72.4%、女性77.4%で、女性の方が5.0ポイント高くなっている。

全数の男性(69.5%)、女性(74.2%)と比較すると、男性で2.9ポイント、女性で3.2ポイントそれぞれ高くなっている。(表12-6)

表12-6 希望する高齢期の住まい（介護が必要にならないうち）

－性・年齢階級、住宅の種類別、全数との比較

	総数	現在の住宅に住み続けたい	子供や親族の家またはその近くの一般の住宅に移りたい	有料老人ホームに入居したい	高齢者向け住宅(サービス付き高齢者向け住宅など)に入居したい	上記2～4(注1)以外の一般の住宅に移りたかったところなど	その他	わからない	無回答	
高齢者夫婦のみ	100.0 (1,280)	74.9	2.7	2.3	6.1	1.3	0.8	8.0	3.9	
性別	男	100.0 (635)	72.4	2.2	2.7	5.4	2.0	0.6	9.1	5.5
	女	100.0 (645)	77.4	3.1	2.0	6.8	0.5	0.9	7.0	2.3
年齢階級別	65～69歳	100.0 (368)	74.5	2.4	1.9	6.5	2.2	1.6	7.3	3.5
	70～74歳	100.0 (399)	72.4	3.3	2.5	7.5	0.5	0.5	10.0	3.3
	75～79歳	100.0 (312)	78.5	2.6	1.9	5.4	1.3	0.3	6.7	3.2
	80～84歳	100.0 (145)	74.5	2.8	4.1	2.8	1.4	0.7	7.6	6.2
	85歳以上	100.0 (56)	76.8	-	1.8	5.4	-	-	7.1	8.9
住宅の種類別	持家(一戸建て)	100.0 (801)	80.8	2.2	1.7	4.2	0.5	0.5	6.0	4.0
	持家(分譲マンションなど)	100.0 (243)	78.6	1.6	4.5	4.5	0.8	-	6.6	3.3
	民間賃貸住宅	100.0 (95)	27.4	8.4	3.2	20.0	6.3	5.3	25.3	4.2
	都・区市町村の公営賃貸住宅	100.0 (81)	72.8	2.5	1.2	11.1	1.2	-	4.9	6.2
	都市再生機構(旧公団)・公社などの賃貸住宅	100.0 (39)	64.1	2.6	2.6	7.7	5.1	2.6	15.4	-
	借家(一戸建て)	100.0 (12)	33.3	-	-	16.7	8.3	-	33.3	8.3
全数	100.0 (3,731)	72.0	2.2	2.2	6.7	2.3	1.3	8.8	4.4	
性別	男	100.0 (1,711)	69.5	2.2	2.6	6.0	2.8	0.9	10.5	5.6
	女	100.0 (2,020)	74.2	2.3	1.9	7.3	1.9	1.5	7.4	3.5

注1) 上記2～4とは、「子供や親族の家またはその近くの一般の住宅に移りたい」、「有料老人ホームに入居したい」、「高齢者向け住宅(サービス付き高齢者向け住宅など)に入居したい」を指す。
2) 住宅の種類別のうち、「高齢者向け住宅など」、「その他」については、母集団がそれぞれ2人、4人のため省略した。

(3) 希望する高齢期の住まい（介護が必要になったとき）一性・年齢階級、住宅の種類別

「現在の住宅に住み続けたい」の割合は、男女とも5割を超えている

高齢者夫婦のみの世帯の人（1,453人）が、介護が必要になったときに希望する高齢期の住まい（現在介護を受けている人は、今後の希望を回答）についてみると、「現在の住宅に住み続けたい」の割合が最も高く51.8%、次いで「介護保険で入所できる施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい」が12.5%となっている。

性別で見ると、「現在の住宅に住み続けたい」の割合は、男性51.4%、女性52.2%となっている。（表12-7）

表12-7 希望する高齢期の住まい（介護が必要になったとき）
一性・年齢階級、住宅の種類別

		総数	現在の住宅に住み続けたい	子供や親族の家またはその近くの一般の住宅に移りたい	有料老人ホームに入居したい	高齢者向け住宅（サービス付き高齢者向け住宅など）に入居したい	介護保険で入所できる施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい	上記2～5（注1）以外の一般的な住宅、生まれ育ったところなど	その他	わからない	無回答
高齢者夫婦のみ		100.0 (1,453)	51.8	2.8	7.8	7.4	12.5	0.3	0.8	10.3	6.3
性別	男	100.0 (735)	51.4	2.3	6.8	6.8	11.7	0.4	0.7	11.2	8.7
	女	100.0 (718)	52.2	3.3	8.8	8.1	13.2	0.3	0.8	9.3	3.9
年齢階級別	65～69歳	100.0 (383)	47.3	2.6	8.1	9.7	14.6	0.8	1.0	11.0	5.0
	70～74歳	100.0 (419)	52.0	3.6	6.9	9.1	13.1	0.2	-	11.0	4.1
	75～79歳	100.0 (344)	53.8	3.2	8.7	5.8	11.9	0.3	0.6	11.0	4.7
	80～84歳	100.0 (208)	54.8	2.4	6.7	4.8	9.1	-	1.4	9.6	11.1
	85歳以上	100.0 (99)	55.6	-	9.1	3.0	10.1	-	2.0	3.0	17.2
住宅の種類別	持家（一戸建て）	100.0 (897)	57.9	1.8	7.6	6.7	10.6	0.2	0.4	8.4	6.5
	持家（分譲マンションなど）	100.0 (270)	48.9	3.0	13.7	6.3	13.0	-	0.4	9.3	5.6
	民間賃貸住宅	100.0 (119)	17.6	8.4	2.5	14.3	21.0	2.5	3.4	22.7	7.6
	都・区市町村の公営賃貸住宅	100.0 (95)	56.8	4.2	-	5.3	20.0	-	1.1	6.3	6.3
	都市再生機構（旧公団）・公社などの賃貸住宅	100.0 (45)	46.7	2.2	6.7	8.9	8.9	-	2.2	20.0	4.4
	借家（一戸建て）	100.0 (15)	13.3	6.7	-	20.0	20.0	-	-	33.3	6.7
全数		100.0 (4,390)	49.5	2.3	6.1	8.3	13.1	1.0	1.0	11.3	7.3
性別	男	100.0 (1,949)	49.9	2.1	6.2	7.5	11.8	1.1	0.9	12.7	7.8
	女	100.0 (2,441)	49.2	2.5	6.1	8.9	14.1	1.0	1.1	10.2	6.8

注1) 上記2～5とは、「子供や親族の家またはその近くの一般の住宅に移りたい」、「有料老人ホームに入居したい」、「高齢者向け住宅（サービス付き高齢者向け住宅など）に入居したい」、「介護保険で入所できる施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい」を指す。

2) 住宅の種類別のうち、「高齢者向け住宅など」、「その他」については、母集団がそれぞれ3人、5人のため省略した。

6 コミュニケーション

(1) 外出の頻度一性・年齢階級、近所付き合いの程度別、22年度調査との比較

「ほぼ毎日」の割合は、22年度調査より4.8ポイント増加し、59.3%

高齢者夫婦のみの世帯の人（1,453人）の外出頻度（日に2回以上外出する場合は1回とする）をみると、「ほぼ毎日」の割合が最も高く59.3%、次いで「週2～3回程度」が15.9%、「週4回程度」が15.3%となっている。

22年度調査と比較すると、「ほぼ毎日」の割合は4.8ポイント増加している。

年齢階級別でみると、年齢階級が上がるにつれて「ほぼ毎日」の割合が低くなっている（34.3%～68.4%）。

近所付き合いの程度別でみると、付き合いがない人は「ほとんど外出しない」の割合が14.3%であり、他の近所付き合いの程度の人と比較して高い割合になっている。（表12-8）

表 12-8 外出の頻度一性・年齢階級、近所付き合いの程度別、22年度調査との比較

		総数	ほぼ毎日	週4回程度	週2 ～ 3回程度	週1回程度	ほとんど外出しない	無回答
高齢者夫婦のみ		100.0 (1,453)	<u>59.3</u>	<u>15.3</u>	<u>15.9</u>	5.2	3.7	0.6
性別	男	100.0 (735)	60.3	13.3	15.9	5.2	4.6	0.7
	女	100.0 (718)	58.4	17.4	15.9	5.2	2.8	0.4
年齢階級別	65～69歳	100.0 (383)	<u>68.4</u>	17.0	8.9	3.4	1.8	0.5
	70～74歳	100.0 (419)	<u>66.8</u>	14.1	13.4	4.3	1.0	0.5
	75～79歳	100.0 (344)	<u>55.8</u>	14.8	18.9	5.5	4.4	0.6
	80～84歳	100.0 (208)	<u>45.2</u>	17.8	23.6	6.3	6.3	1.0
	85歳以上	100.0 (99)	<u>34.3</u>	11.1	27.3	12.1	15.2	-
近所の 程度 付き 合い	お互いに訪問し合う人がいる	100.0 (277)	62.5	14.8	15.5	4.0	2.2	1.1
	立ち話をする程度の人がある	100.0 (654)	60.7	15.4	15.9	5.0	2.6	0.3
	あいさつをする程度の人がある	100.0 (413)	58.8	15.5	15.5	6.1	3.9	0.2
	付き合いがない	100.0 (98)	43.9	16.3	20.4	5.1	<u>14.3</u>	-
全数		100.0 (4,390)	58.0	15.0	15.9	5.1	5.1	0.8
22年度		100.0 (1,611)	<u>54.5</u>	14.8	19.3	5.2	5.2	0.9

(2) 心配ごとや悩みごとの内容〔複数回答〕一性・年齢階級別、全数との比較

「自分の健康・病気」や「配偶者や家族の健康・病気」の割合が高く、それぞれ5割超

高齢者夫婦のみの世帯の人（1,453人）の心配ごとや悩みごとの内容をみると、「配偶者や家族の健康・病気」の割合が最も高く54.7%、次いで「自分の健康・病気」が54.2%、「将来、配偶者に先立たれた後の生活のこと」が27.2%となっている。

性別でみると、男女とも、「自分の健康・病気」や「配偶者や家族の健康・病気」の割合が高く、それぞれ5割を超えている（52.0%～57.5%）。

全数と比較すると、「配偶者や家族の健康・病気」の割合は16.2ポイント高く、「将来、配偶者に先立たれた後の生活のこと」の割合は、12.0ポイント高くなっている。（表12-9）

表12-9 心配ごとや悩みごとの内容〔複数回答〕一性・年齢階級別、全数との比較

	総数	自分の健康・病気	配偶者や家族の健康・病気	家族や親族との人間関係	相談したり、頼れる人がいなくて、一人きりである	地域の人たちとの関係	生活費や経済的なこと	年金・介護・医療など社会保障給付の水準	住宅に関すること	仕事に関すること	財産管理や相続のこと	犯罪に巻き込まれること	地震などの災害にあうこと	将来、配偶者に先立たれた後の生活のこと	自分の死後の配偶者や子供の将来	墓の管理	その他	心配ごとや悩みごとはない	無回答	
高齢者夫婦のみ	100.0 (1,453)	54.2	54.7	7.7	0.8	2.0	15.8	23.2	9.6	3.4	7.0	7.2	23.8	27.2	17.2	7.0	1.0	18.4	4.8	
性・年齢階級別	男	100.0 (735)	53.9	52.0	7.9	0.7	2.4	15.8	22.2	10.2	4.9	7.1	6.5	19.9	27.2	18.6	6.7	1.1	18.9	6.9
	65～74歳	100.0 (354)	50.8	49.4	7.9	0.3	2.3	20.6	23.4	11.6	8.2	6.2	4.2	20.1	26.6	18.6	6.8	1.1	20.9	4.2
	75歳以上	100.0 (381)	56.7	54.3	7.9	1.0	2.6	11.3	21.0	8.9	1.8	7.9	8.7	19.7	27.8	18.6	6.6	1.0	17.1	9.4
	女	100.0 (718)	54.5	57.5	7.5	0.8	1.5	15.7	24.2	9.1	1.9	6.8	7.9	27.9	27.2	15.7	7.4	1.0	17.8	2.6
	65～74歳	100.0 (448)	49.8	53.1	7.6	1.1	1.1	17.6	28.6	9.6	2.7	6.7	8.3	28.6	28.3	15.6	6.7	1.3	18.5	1.8
	75歳以上	100.0 (270)	62.2	64.8	7.4	0.4	2.2	12.6	17.0	8.1	0.7	7.0	7.4	26.7	25.2	15.9	8.5	0.4	16.7	4.1
全数	100.0 (4,390)	52.9	58.5	7.9	2.1	2.1	18.5	21.9	10.0	4.0	6.2	6.2	23.1	15.2	14.8	6.4	1.2	20.5	5.7	

(3) 心配ごとや悩みごとの相談相手〔複数回答〕－性・年齢階級別、全数との比較

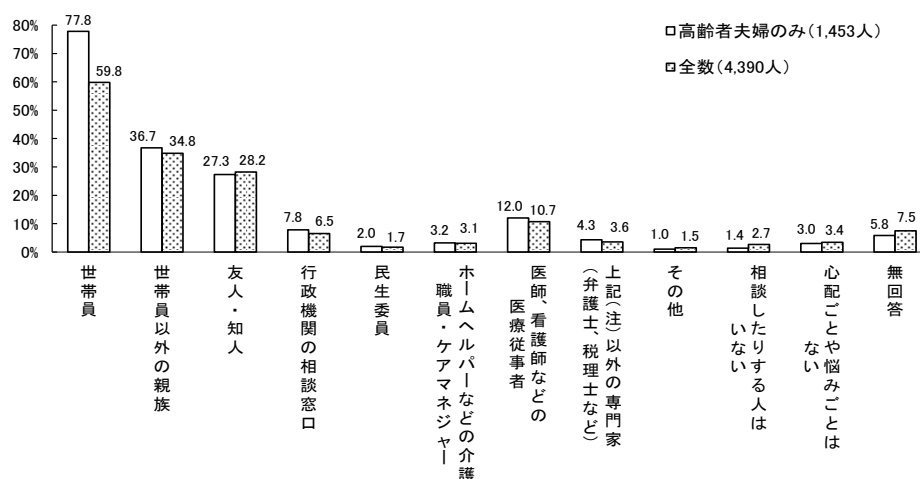
「世帯員」の割合が最も高く、77.8%

高齢者夫婦のみの世帯の人(1,453人)の心配ごとや悩みごとの相談相手をみると、「世帯員」が77.8%で最も高く、次いで「世帯員以外の親族」が36.7%となっている。(図12-5)

性・年齢階級別にみると、「世帯員」は前期高齢者(65～74歳)の男性が82.2%、「世帯員以外の親族」は後期高齢者(75歳以上)の女性が47.4%、「友人・知人」は前期高齢者(65～74歳)の女性が43.3%で、それぞれ他の年齢階級と比べて高い割合となっている。

全数と比較すると、「世帯員」が18.0ポイント、「世帯員以外の親族」は1.9ポイントそれぞれ高くなっている。(表12-10)

図12-5 心配ごとや悩みごとの相談相手〔複数回答〕－全数との比較



注) 上記とは、「医師、看護師などの医療従事者」を指す。

表12-10 心配ごとや悩みごとの相談相手〔複数回答〕－性・年齢階級別、全数との比較

	総数	世帯員	世帯員以外の親族	友人・知人	行政機関の相談窓口	民生委員	職員・ケアマネジャー	医師、看護師などの医療従事者	上記(注)以外の専門家(弁護士、税理士など)	その他	相談したりする人はいない	心配ごとや悩みごとはない	無回答
高齢者夫婦のみ	100.0 (1,453)	77.8	36.7	27.3	7.8	2.0	3.2	12.0	4.3	1.0	1.4	3.0	5.8
性・年齢階級別	男	100.0 (735)	79.3	29.4	18.5	8.8	2.2	13.5	4.6	1.1	1.6	3.9	8.2
	65～74歳	100.0 (354)	82.2	24.9	24.3	8.2	1.4	0.8	13.0	4.0	1.1	1.7	5.6
	75歳以上	100.0 (381)	76.6	33.6	13.1	9.4	2.6	3.4	13.9	5.2	1.0	1.6	10.5
	女	100.0 (718)	76.2	44.2	36.2	6.7	1.9	4.3	10.4	3.9	1.0	1.3	3.3
65～74歳	100.0 (448)	78.3	42.2	43.3	6.7	2.2	2.7	9.8	5.4	0.7	1.3	2.0	2.5
75歳以上	100.0 (270)	72.6	47.4	24.4	6.7	1.5	7.0	11.5	1.5	1.5	1.1	1.9	4.8
全数	100.0 (4,390)	59.8	34.8	28.2	6.5	1.7	3.1	10.7	3.6	1.5	2.7	3.4	7.5

注) 上記とは、「医師、看護師などの医療従事者」を指す。

7 就業・経済

(1) 収入のある仕事の有無一性・年齢階級、本人の年収別、22年度調査との比較

「仕事をしている」割合は、男性の65～74歳が最も高く、51.7%

高齢者夫婦のみの世帯の人（1,453人）の収入のある仕事の有無をみると、「仕事をしている」割合は29.9%、「仕事をしていない」割合は69.6%となっている。

性・年齢階級別にみると、「仕事をしている」割合は、男性の前期高齢者（65～74歳）が最も高く、51.7%となっている。

22年度調査（26.8%）と比較すると、「仕事をしている」割合は、3.1ポイント高くなっている。（表12-11）

表 12-11 収入のある仕事の有無
一性・年齢階級、本人の年収別、22年度調査との比較

		総 数	い る 事 を し て	い な 事 を し て	無 回 答
高齢者夫婦のみ		100.0 (1,453)	29.9	69.6	0.6
性・ 年 齢 階 級 別	男	100.0 (735)	35.5	64.4	0.1
	65～74歳	100.0 (354)	51.7	48.3	-
	75歳以上	100.0 (381)	20.5	79.3	0.3
	女	100.0 (718)	24.1	74.9	1.0
	65～74歳	100.0 (448)	31.5	67.6	0.9
	75歳以上	100.0 (270)	11.9	87.0	1.1
本 人 の 年 収 別	50万円未満	100.0 (89)	11.2	86.5	2.2
	50万円以上 100万円未満	100.0 (303)	14.9	85.1	-
	100万円以上 150万円未満	100.0 (174)	19.5	79.9	0.6
	150万円以上 200万円未満	100.0 (123)	26.8	73.2	-
	200万円以上 250万円未満	100.0 (167)	33.5	66.5	-
	250万円以上 300万円未満	100.0 (156)	30.8	68.6	0.6
	300万円以上 500万円未満	100.0 (226)	41.2	58.4	0.4
	500万円以上 700万円未満	100.0 (56)	58.9	39.3	1.8
	700万円以上 1,000万円未満	100.0 (29)	69.0	31.0	-
	1,000万円以上	100.0 (43)	81.4	18.6	-
	全数	100.0 (4,390)	31.2	68.2	0.5
	22年度	100.0 (1,611)	26.8	72.8	0.4

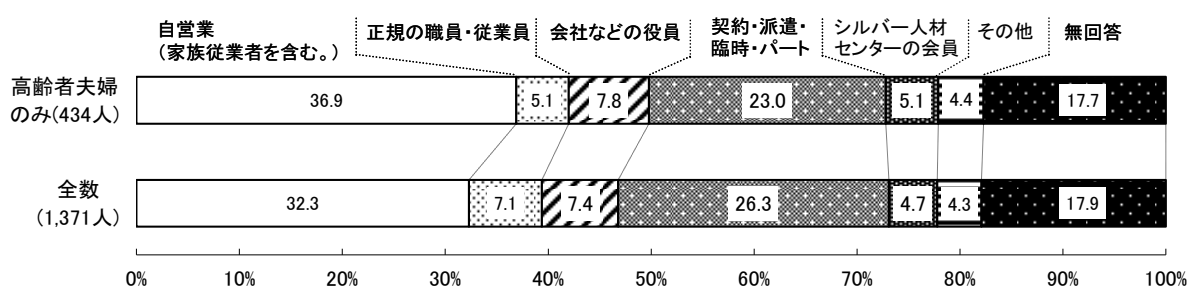
(2) 収入のある仕事の内容－全数との比較

全数と比較して「自営業（家族従業者を含む。）」の割合が高い

高齢者夫婦のみの世帯の人（1,453人）で、収入のある仕事をしている人（434人）の仕事（複数している場合は、収入の最も多いもの）の内容をみると、「自営業（家族従業者を含む。）」の割合が36.9%で最も高く、次いで「契約・派遣・臨時・パート」が23.0%、「会社などの役員」が7.8%となっている。

全数（32.3%）と比較すると、「自営業（家族従業者を含む。）」の割合は、4.6ポイント高くなっている。（図12-6）

図12-6 収入のある仕事の内容－全数との比較



注) 全数とは、高齢者全体のうち、収入のある仕事をしている1,371人。

(3) 本人の年収一性・年齢階級、収入のある仕事の有無別

男性は「300万円以上 500万円未満」、女性は「50万円以上 100万円未満」の割合が最も高い

高齢者夫婦のみの世帯の人（1,453人）の平成26年中の総年収（税込み）を性別で見ると、男性では「300万円以上 500万円未満」の割合が23.8%で最も高く、次いで「200万円以上 250万円未満」、「250万円以上 300万円未満」がそれぞれ16.7%となっている。一方、女性は「50万円以上 100万円未満」の割合が36.8%で最も高く、次いで「100万円以上 150万円未満」が17.1%、「50万円未満」が11.0%となっている。

男性は年収200万円以上が71.8%、一方、女性は年収200万円未満が73.8%で、それぞれ7割となっている。（表12-12）

表 12-12 本人の年収一性・年齢階級、収入のある仕事の有無別

		総 数	5 0 万 円 未 満	1 5 0 0 万 円 以 上 未 満	1 1 5 0 万 円 未 以 上	2 1 0 5 万 円 未 以 上	2 2 5 0 万 円 未 以 上	3 2 0 5 万 円 未 以 上	5 3 0 0 万 円 未 以 上	5 0 万 円 以 上	無 回 答
高齢者夫婦のみ		100.0 (1,453)	6.1	20.9	12.0	8.5	11.5	10.7	15.6	8.8	6.0
性・ 年齢 階級 別	男	100.0 (735)	1.4	5.3	6.9	8.0	<u>16.7</u>	<u>16.7</u>	<u>23.8</u>	14.6	6.5
	65～69歳	100.0 (145)	1.4	5.5	3.4	5.5	16.6	16.6	24.8	19.3	6.9
	70～74歳	100.0 (209)	1.0	5.3	8.1	8.6	17.7	14.8	21.1	13.9	9.6
	75～79歳	100.0 (189)	2.1	4.2	9.0	10.1	15.9	16.4	20.1	17.5	4.8
	80～84歳	100.0 (127)	1.6	5.5	5.5	9.4	18.1	19.7	26.8	8.7	4.7
	85歳以上	100.0 (65)	-	7.7	7.7	3.1	13.8	18.5	35.4	9.2	4.6
	女	100.0 (718)	<u>11.0</u>	<u>36.8</u>	<u>17.1</u>	8.9	6.1	4.6	7.1	2.9	5.4
	65～69歳	100.0 (238)	6.3	31.9	14.7	11.8	6.3	5.9	11.8	4.6	6.7
	70～74歳	100.0 (210)	12.4	42.9	14.8	5.2	7.6	3.8	3.8	3.3	6.2
	75～79歳	100.0 (155)	14.2	36.8	18.7	10.3	5.8	2.6	5.8	1.3	4.5
	80～84歳	100.0 (81)	13.6	38.3	23.5	8.6	3.7	3.7	4.9	1.2	2.5
	85歳以上	100.0 (34)	14.7	29.4	26.5	5.9	2.9	11.8	5.9	-	2.9
有 無 別	仕事をしている	100.0 (434)	2.3	10.4	7.8	7.6	12.9	11.1	21.4	20.3	6.2
	仕事をしていない	100.0 (1,011)	7.6	25.5	13.7	8.9	11.0	10.6	13.1	3.9	5.7
全数		100.0 (4,390)	5.7	18.7	13.4	11.9	12.4	9.7	13.1	9.1	6.1

8 高齢者に対する必要な施策や支援〔複数回答〕

「特別養護老人ホームなどの施設の充実」の割合が最も高く、56.6%

高齢者夫婦のみの世帯の人（1,453人）が大切だと思う高齢者に対する必要な施策や支援は、「特別養護老人ホームなどの施設の充実」の割合が56.6%で最も高く、次いで「日中の訪問介護（ホームヘルプサービス）や訪問看護など、介護者が自宅を訪問する形態の在宅サービス」が55.0%、「年金や医療など国の社会保障制度」が54.1%と続いている。（図12-7）

図12-7 高齢者に対する必要な施策や支援〔複数回答〕－全数との比較

